

議 員 全 員 協 議 会
 市政運営の総合指針 2020 の改定について

令和 3 年 1 月 2 9 日

	審査区分	担当部等
1	「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針 2024」(案) 基本目標 1 から 8 まで及び まちづくりテーマ 1 から 5 までを除く	総務部 企画政策部 財務部
2	基本目標 1 【安全な暮らしを守る】 2 【文化・スポーツを盛んにする】 3 【自然を守り豊かな環境をつくる】 4 【子どもたちを守り育む】 まちづくりテーマ 1 安全で安心な暮らしを築く 3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる 5 未来を見据えてみんなではじめる	総務部 企画政策部 財務部 防災安全部 生涯学習部 福祉健康部 子ども青少年部 環境部 経済部 計画建築部 都市整備部 道路河川部 下水道部 消防局 教育部 市民病院
3	基本目標 5 【健康で安心な暮らしを支える】 6 【地域経済を循環させる】 7 【都市基盤を充実する】 8 【市民自治・地域づくりを進める】 まちづくりテーマ 2 健康で豊かな長寿社会をつくる 4 都市の機能と活力を高める	総務部 企画政策部 財務部 市民自治部 生涯学習部 福祉健康部 環境部 経済部 計画建築部 都市整備部 道路河川部 下水道部

- 資料：資料 1 市政運営の総合指針 2020 の改定について
 資料 2 パブリックコメントの実施結果
 資料 3 13 地区郷土づくり推進会議からの意見募集の実施結果
 資料 4 関係団体・協議会等からの意見募集の実施結果
 資料 5 (仮称) 藤沢市市政運営の総合指針 2024 (案)
 資料 6 重点事業(案)の概要について

市政運営の総合指針2020の改定について

市政運営の総合指針2020の改定については、新型コロナウイルス感染症対策を優先しつつ、年度内の改定に向けて、広く市民や関係団体からもご意見をいただきながら、改定作業を進めています。12月18日開催の議員全員協議会において多くのご意見をいただき、総合指針改定委員会での議論を通じて改定素案をさらに精査し、改定案をまとめました。今回は、これまでの取組状況、新たな総合指針(案)及び重点事業(案)等について報告するものです。

1 庁内における検討状況

(1) 総合指針改定委員会の開催

理事者、部局長により構成する総合指針改定委員会を13回開催し、各部局から提案された意見、事務局案等に関する議論と意見集約を行いました。

(2) 部内会議・課内会議等での検討

各総合指針改定委員会の間に、各部各課において、新たな総合指針(案)の作成、重点事業(案)の選定についての庁内意見提出等のために検討を行いました。

2 広聴の実施結果について

(1) パブリックコメント(市民意見公募)(資料2)

ア 案件名 (仮称)藤沢市市政運営の総合指針2024(素案)

イ 実施期間 12月15日から1月13日まで

ウ 提出結果 提出者数11人、意見数52件

エ 主な意見内容

まちづくりコンセプトや基本目標4の子育て・教育分野に関するご意見が多くありました。

(2) 13地区郷土づくり推進会議からの意見募集(資料3)

各市民センター・公民館と連携し、郷土づくり推進会議で、市政運営の総合

指針2020改定についてのポイントをご説明し、意見交換及びアンケートを実施しました。

ア 提出結果 提出者数103人、意見数335件

イ 主な意見内容

20年後の藤沢市の姿と直近4年間の重点取組のいずれについても、防災・防犯など、地域の安全・安心に関する多くのご意見のほか、多岐にわたるご意見をいただきました。直近4年間の重点取組については、新型コロナウイルス感染症対策を求めるご意見も多くいただきました。

(3) 関係団体等からの意見募集（資料4）

関係団体等からも幅広くご意見をいただくため、各部局と連携し、意見交換及びアンケート等を実施しました。

ア 提出結果 提出団体19団体、提出者数117人、意見数493件

イ 主な意見内容

各団体の皆様から、「福祉・暮らし」や「子ども・子育て」など、多岐にわたるご意見をいただきました。直近4年間の重点取組については、新型コロナウイルス感染症対策を求めるご意見も多くいただきました。

3 (仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2024（案）（資料5）

これまでの検討結果を踏まえ、案をまとめました。12月18日の議員全員協議会以降の主な修正箇所については、資料5の該当箇所に下線を付しています。主な修正内容については、次のとおりです。

【33ページから34ページ】

まちづくりテーマ1「安全で安心な暮らしを築く」の重点施策3「感染症対策の強化」について、感染拡大防止のためには、事業者の協力が重要であることを踏まえ、中心となる所管部に経済部を追記しました。

【37ページ】

まちづくりテーマ3「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」の重点施策1「子どもたちの笑顔あふれる学校教育の推進」に、今後の少人数学級への制度移行への対応についての記述を追記しました。

【39ページから40ページ】

まちづくりテーマ4「都市の機能と活力を高める」の重点施策3「地域経済循環を高める経済対策の推進」については、感染症により深刻な影響を受けている産業の記述に飲食業を追記しました。

4 重点事業（案）（資料6）

重点施策の実現に向けて、特に喫緊の課題として重点的に取り組む事業を重点事業として位置づけるもので、その案を作成しました。

5 今後の取組予定

（仮称）藤沢市市政運営の総合指針2024（案）の基本方針部分については、令和3年2月市議会定例会に議案として提出いたします。

さらに、地方創生推進交付金等の活用を図るため、新たな総合指針と整合を図った地方版総合戦略（藤沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略）の改定を行うとともに、SDGs推進のための方針策定を進めます。

以 上

（事務担当 企画政策部 企画政策課）

パブリックコメントの実施結果

「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2024(素案)」について、パブリックコメント(市民意見公募)を行いました。実施結果については、次のとおりです。

1 実施期間

令和2年12月15日(火)から令和3年1月13日(水)まで

2 提出結果

- (1) 提出者数 11人
(2) 意見数 52件

3 提出された意見について

(1) 意見の内訳

区分	分類	件数	割合
はじめに	藤沢市の現状と見通し	3	5.8%
基本方針	策定の背景と意義	3	5.8%
	まちづくりコンセプト	6	11.5%
	基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	3	5.8%
	基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	5	9.6%
	基本目標4 子どもたちを守り育む	6	11.5%
	基本目標6 地域経済を循環させる	1	1.9%
	基本目標7 都市基盤を充実する	3	5.8%
	基本目標8 市民自治・地域づくりを進める	1	1.9%
重点方針	取組の考え方	3	5.8%
	まちづくりテーマ1 安全で安心な暮らしを築く	3	5.8%
	まちづくりテーマ2 健康で豊かな長寿社会をつくる	1	1.9%
	まちづくりテーマ3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	1	1.9%
	まちづくりテーマ4 都市の機能と活力を高める	2	3.8%
	まちづくりテーマ5 未来を見据えてみんなではじめる	5	9.6%
	評価	1	1.9%
その他	その他	5	9.6%
合計		52	100.0%

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

(2) 意見の内容

No.	意見の概要
藤沢市の現状と見通し	
1	人口構成の変化や税収の減少などが懸念されるので右肩上がりの発展は見直すべき。特にコロナ禍の収束見通しが立たないことから、大型開発やまちづくり事業を一度中止し、高齢者、子どもたち、生活困窮者等に手厚い補助や支援をすべき。
2	福祉予算の増額が重荷になっていると強調すべきではない。市の姿勢が生活保護や福祉制度を利用する人への重荷になり、利用控えになっている。 公共施設の整備や大型事業に多額の費用がかかっていることを市民に周知、説明し、もっと節約すべき。市民の声を聴くべき。
3	6つの都市拠点の一つに（仮称）村岡新駅周辺が計画されているが、コロナ対策関連予算がかさむ中、村岡新駅周辺の開発はストップすべき。
策定の背景と意義	
4	市民と協働で市政運営に取り組むのであれば、公共計画（基本構想・基本計画・実施計画の三層構造）での策定が望まれるが、三層構造の計画策定は大変な労力と時間を要するため、基本構想は市政運営に大きく影響する外部環境の変化がなければ前計画を踏襲し、基本計画は4年ごとの市長選時に市政運営方針を反映させた見直しを行い、実施計画は重点施策レベルでの施策の見直しをする計画策定とすべき。
5	総合指針は市長任期に合わせた4年ごとの策定となっているが、例えば都市計画やインフラ整備など、中長期的な取組については、市長の交代ごとに計画が変更となる可能性も懸念され、行政と市民が同じ目標に向けたまちづくりにならない。
6	総合指針は条例で規定されていないため、議会のチェックを受ける仕組みが確立されていない。財政計画との関連においても、政策が費用対効果の視点で合理的なものか否か、第三者視点でのチェックがされないまま市長決裁で実施されてしまうのではないか。

No.	意見の概要
まちづくりコンセプト	
7	SDGsの視点はとても良いと思うが、大胆な見直しの中に「今あるものを、手入れをしながら長く大切に使う」という視点も入れるべき。
8	デジタル化は必要だが、こればかりに力を入れ過ぎると怖さを感じる。あまりに最先端過ぎると住みにくい気がする。
9	デジタル市役所・スマートシティの推進では、防犯カメラを増やすべきではない。
10	スーパーシティ構想は個人のプライバシーが侵害される恐れがある。市は検討を進めるとのことだったが、まずは市民に周知をすべき。
11	まちづくりコンセプト3に市民サービスのあり方を見直すとあるが、行政の窓口業務は市民の声を直接聞き、行政サービスにつなげる大切な業務なので、窓口業務の民間委託や市の職員の削減はやめるべき。
12	災害や電気の供給ストップで使えなくなるデジタル化ではなく、正規の専門の職員を増やすべき。
基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	
13	図書館サービスについては、誰でも利用できるような開館時間帯にし、蔵書を充実させ、手書きカードで管理する市民図書室を総合図書館と同様の管理システムにすべき。小学校の図書室も魅力あるものにすべき。
14	図書館の充実に賛成である。予算や数を減らさないでほしい。特に無形文化財の継承やスポーツはお金や時間の余裕が無ければできない。
15	図書館が文化振興に役立っている。4市民図書館1市民図書室の堅持と予算の増額をすべき。 また、鶴沼公民館等の郷土資料の保全充実も郷土愛醸成のために必要である。
基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	
16	藤沢駅周辺、辻堂駅周辺は緑が少ないので、街中の緑化を進めるべき。ゴミはもっとリデュースに力を入れるべき。 農地の保全、活用には賛成である。農地の休耕地ゼロを進めるのも環境にとって重要である。

No.	意見の概要
基本目標 3 自然を守り豊かな環境をつくる	
17	自然を壊す不要不急の土地区画整理や駅開発はやめるべき。
18	マイクロプラスチックを海に流出させないために、海が近い藤沢だからこそ、人工芝を使用禁止にすべき。 太陽光や川の小水力発電等により、市で電気供給できるようにすべき。
19	国は風力発電に力を入れるようだが、採算が採れずに撤退した事例もあるので、本市では慎重な対応をすべき。 また、HHO ガスと燃料電池を組み合わせた災害時用電源の備蓄など、安全に暮らしていく未来のために実用化の始まった革新的エネルギーを視野に入れた政策を進めるべき。
20	気候危機の文言が入ったことは評価できるが、ゼロカーボンシティ実現のための具体的施策、中期的・長期的な目標・計画について明確に記述すべき。
基本目標 4 子どもたちを守り育む	
21	子どもの貧困が問題になっている。生活保護の要保護対象や準要保護のランクを下げて対象者を減らすことはやめるべき。 義務教育は無償だが、保護者負担が重い。子どもたちの未来を切り開くための支援を充実すべき。
22	支援が必要な子どもたちへの関連予算は削減すべきではない。（特別支援教育就学奨励制度、幼児教育振興助成費、法人立保育所運営費等助成事業、特別支援保育等関係費等）
23	公立保育園は、地域の子育て支援や一時預かりや園庭開放を行い、病児保育の検討も行っており、果たす役割は大きいので廃止方針を撤回し、保育士の待遇改善、園でのコロナ対策の充実に取り組むべき。 また、学童保育で庭がないところがあるので、庭を必要条件とすべき。
24	ICT を活用した学習を進めるとのことだが、学校の職員の要望を聞くべき。 また、電磁波から子どもの健康を守るべき。
25	学校が格差の再生産の場にならないためにも、クラスの少人数制や複数担任制を導入すべき。 また、子どもと教師と親と地域に問題が共有される学校運営をすべき。

No.	意見の概要
基本目標 4 子どもたちを守り育む	
26	<p>学校では教員が不足している。教室が密な状況になっているので、コロナ対策の観点からも教員を増やし、分散学習をすべき。</p> <p>また、特別支援学級は県の教員加配も減っているため、市の介助員頼みになっている。もっと現場の教員の声を聴くべき。</p>
基本目標 6 地域経済を循環させる	
27	<p>新型コロナウイルス感染症による影響を受けている中小のお店の支援を行うことで、藤沢が住みやすいまちになるのではないかと。</p>
基本目標 7 都市基盤を充実する	
28	<p>都市基盤施設の再編集約をするなら、村岡新駅建設には反対である。市がどのようなまちづくりをしたいのか方針がわからない。緑の保全と言いながら、住宅地の緑が宅地化されている。さらなる開発ではなく、本気で緑を保全すべき。</p>
29	<p>高齢者や子育て中の方は、近いところに公共施設があったほうが利用しやすいため、施設の再編、集約化ではなく既存のものを改修して使用するなどの工夫をすべき。</p>
30	<p>市内の公園にはトイレがなく、子どもたちが困っているのでトイレを設置すべき。</p>
基本目標 8 市民自治・地域づくりを進める	
31	<p>子どもたちだけでなく、学ぶ機会がなかった大人にも人権教育は大切である。性教育や憲法を知ることは人権教育や主権者教育につながると思う。</p>
取組の考え方	
32	<p>新総合計画2020の終了に伴い、市民・市民団体などの協力を得て推進してきた施策が止まってしまったが、協力者への説明やフォローが不十分であった。このような経過もあり、総合指針でマルチパートナーシップの推進を掲げても協力を得にくいので、どのような推進の仕方にすればよいのか課題解決が必要。</p>

No.	意見の概要
取組の考え方	
33	環境対策の推進にも庁内部局の横断的連携を強く打ち出してほしい。計画建築部の「ふじさわサイクルプラン」（CO2削減）や「空き家対策」（資源の利用）なども、気候危機への緩和策につながる政策だと思う。また、環境部の「エネルギーの地産地消」事業が適応策である災害対策にも含まれると思う。
34	横断的連携による市政運営方針は重要であるが、複数の部局が関係する取組を行うにあたり、目的を達成するための推進管理などのルール作りを明確化する必要がある。現状ではそれが無いために関係部局の取組がバラバラで成果が出ていない。
まちづくりテーマ1 安全で安心な暮らしを築く	
35	交通安全対策では大通りの整備だけではなく、もっと歩行者目線で細い道など生活道路の整備・安全対策をすべき。
36	感染症対策の強化では、高齢者施設、障がい者施設、医療従事者、保育園・幼稚園・学校の職員を対象に定期的にPCR検査を行うべき。 介護者が感染した場合の要介護者への生活支援も行うべき。このように市の職員は対応すべきことがたくさんあるので、市の職員を減らすべきではない。
37	新型コロナウイルス感染症に関する情報提供の徹底をすべき。発熱した場合の検査はどこに相談するのかさえ分からない。
まちづくりテーマ2 健康で豊かな長寿社会をつくる	
38	全ての年代で支援が必要なことがあると思うので、必要な支援がスムーズに行き届くよう、地域包括支援センター、福祉部署の役目をより充実させ、予算を増やすべき。 また、地域産業と協力し、支援を迅速にするためのデジタル化やスマートシティ推進に取り組み、具体的な事業が発生するところに、地域の就労希望者を募って活性化を図るべき。
まちづくりテーマ3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	
39	藤沢市は子どもが増えているが、プレハブ校舎ゼロ、非正規雇用の先生もゼロにし、オンライン学習の整備もすべき。

No.	意見の概要
まちづくりテーマ4 都市の機能と活力を高める	
40	村岡地区に都市拠点を整備することが藤沢の都市機能を高める事になるとは思えない。コロナ対策や補償，藤沢駅周辺の整備に予算をかけるべき。 経済対策は，食の基本の「農業」にも力を入れて欲しい。
41	右肩下がりの財政の中，村岡新駅周辺の開発は矛盾しているので，全市民からのアンケート調査により賛否を問い，その結果を尊重してもらいたい。
まちづくりテーマ5 未来を見据えてみんなではじめる	
42	デジタル市役所・スマートシティの推進については，IT推進課が中核となると思われるが，自力での施策推進は難しいと捉えている。有識者や大学の協力を得ながら推進するものとなるが，どのような推進の仕方で行くのか検討が必要である。
43	郷土愛の基本理念を考えると，市民参加型・活躍型の意見交流は不可欠である。デジタル化やスマートシティの推進は市民のためになることのみを念頭に，企業優先にならないようにすべき。
44	個人情報の漏洩や無断利用の危険があるため，行政効率化のためのマイナンバーカード普及に反対する。国の進めるマイナンバーカードの活用は地方自治体を無くすことにつながる危険がある。
45	マイナンバーカードの普及促進を図るということだが，情報の漏洩や紛失の危険があるので，やめるべき。
46	人材育成の推進については，現状の職員の実態を把握した上で，人材育成課題を明確化して取り組んでももらいたい。現状，部門担当職員の職務遂行に関わる能力不足により市民の権利侵害や権利剥奪が起きているので，どのような育成の仕方をすれば市民満足度が得られる職務遂行ができるのか検討すべき。
評価	
47	重点施策の評価方法である「市民意識調査」の実施手法等について詳細に記載すべき。
その他	
48	新たな総合指針の作成・実行に大きな期待をしているが，資料全体がやや重複し長文なので理解しやすい構成にすべき。

No.	意見の概要
その他	
49	素案はもっとわかりやすく簡潔にすべき。同じことが何回も出てきて分かりづらい。
50	基本方針から重点方針への展開については整合性がなく，表現が抽象的（文学的）で分かりづらいため経営理念としては不適切である。
51	総合指針は，カタカナやアルファベットが多い。誰一人取り残さないまちにという姿勢を誰にもわかりやすい言葉で説明すべき。
52	以前，市と地域住民で市政への要望を語り合う会があった。オンラインで市長，議員，市職員との意見交換会を行ってほしい。

以 上

13地区郷土づくり推進会議からの意見募集の実施結果

新たな市政運営の総合指針の策定にあたり、13地区において、郷土づくり推進会議委員を対象に、20年後の藤沢市の姿及び直近4年間に最も重点的に取り組むべきことについて、意見交換・アンケート調査を実施しました。

結果については、次のとおりです。

1 意見交換・アンケート調査の依頼先等

年月日	会議名
令和2年10月13日	明治地区郷土づくり推進会議
令和2年10月13日	善行地区郷土づくり推進会議
令和2年10月22日	御所見地区郷土づくり推進会議
令和2年10月22日	六会地区郷土づくり推進会議
令和2年10月27日	わくわく未来づくり会議（湘南台地区）
令和2年10月27日	湘南大庭地区郷土づくり推進会議
令和2年10月29日	村岡いきいきまちづくり会議
令和2年11月9日	鵜沼地区郷土づくり推進会議
令和2年11月19日	片瀬・江の島まちづくり協議会
令和2年11月19日	藤沢地区地域まちづくり会議
令和2年11月19日	遠藤郷土づくり推進会議
令和2年11月20日	長後地区郷土づくり推進会議
令和2年12月17日	辻堂まちづくり会議

2 提出結果

(1) 「20年後の藤沢市の姿」に関する意見

提出者数 103人 意見数 161件

(2) 「直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと」に関する意見

提出者数 93人 意見数 174件

3 提出された意見について

(1) 意見の内訳

区分	政策分野	20年後の姿		直近4年の重点取組	
		回答件数	割合 (%)	回答件数	割合 (%)
1	安全な暮らしを守る	22	13.7	41	23.6
2	文化・スポーツを盛んにする	4	2.5	4	2.3
3	自然を守り豊かな環境をつくる	18	11.2	10	5.7
4	子どもたちを守り育む	5	3.1	19	10.9
5	健康で安心な暮らしを支える	23	14.3	24	13.8
6	地域経済を循環させる	12	7.5	9	5.2
7	都市基盤を充実する	19	11.8	21	12.1
8	市民自治・地域づくりを進める	33	20.5	13	7.5
9	その他	25	15.5	33	19.0
合 計		161	100.0	174	100.0

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

(2) 意見の概要

※令和2年12月18日の議員全員協議会で報告した12月4日までのご意見に加え、12月5日以降にいただいたご意見には、「○」印を表示しています。

ア アンケート「20年後の藤沢市の姿」に関する意見

	12月5日以降受付	地 区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
1		六会	・緑あるまちづくり。
2		六会	・子ども・高齢者・障がいのある方なども、生活しやすく楽しい生活が送れると良い。
3		六会	・市民憲章（5項目）を誰もが実感できるまちづくり。
4		六会	・「スマート藤沢」テクノロジーを活用した安心安全で暮らせるまちづくり。 ・福祉行政が他市より暮らしやすいまちの実感。
5		六会	・残されている自然環境の保全と維持活動への市民参加。
6		片瀬	・人口減、経済低迷の中にあって、ミニマムな市政への転換を。 ・SDGs のどこに重点を置くかを見据えて施策を立ててほしい。

	12月5日以降受付	地 区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
7		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時にも強い藤沢市。 ・住民や観光客に安心，安全を提供できる施設。 ・今後，順次市民の家を建て替えるとき従来の利用方法に加えて，災害時に多目的利用（例えば，福祉避難所，水害避難所等）できる施設を切望。
8		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と若者にやさしいまち。 ・高いビルマンションの少ないまち。 ・工場を誘致すべし。
9		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・小田急，江ノ電，モノレールなどの交通機関があり，移動は容易で利便性が高く極めて住み心地がよいが，交通量も多く通学路の道幅が狭いため，十分な道幅を確保してほしい。 ・児童の安全が担保されたまちにしたい。
10		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー層が多く住む活気あるまち。 ・仕事の間が集中して存在するまち（例：シリコンバレー。）。 ・税収が十分確保でき，住民のサポートが万全となるまち。 ・湘南の価値を高め，牽引していくまち。
11		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かなまちを維持してほしい。
12		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を残しつつ新しい文化，様式をうまく取り入れて明るいまちになってほしい。
13		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実に重点的に取り組んでほしい。
14		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が色々な情報を詳しく知ることができているまちになってほしい。
15		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・災害のない都市（未然に川の補修工事を行い，どんな大雨にも耐えられる堤防工事等により市民を洪水から守る。）。
16		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・南北格差のない藤沢市全体が，個人ニーズによって住みたい地域があり，藤沢市のどこでも，機能性あふれるまちになってほしい。
17		御所見	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根付きの広い公園の整備。
18		御所見	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある農業に取り組んでほしい。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
19		御所見	・高齢者が楽に安心して暮らせるまちづくり。
20		御所見	・南部と北部の格差をなくし北部の開発。
21		御所見	・湘南地域でリモートワークがしやすい環境が整ったまちになっている。
22		御所見	・高齢者が買い物しやすいまちに。
23		御所見	・緑豊かで人にやさしいまち。 ・安全安心なまち。 ・買い物や医療機関に容易に足が運べる公共交通の充実。 ・高齢者が生活しやすい環境にしてほしい。
24		御所見	・豊かな環境。 ・安全で安心して暮らせるまち。
25	○	御所見	・子どもの多いまちであってほしい。
26		遠藤	・これまでの計画の検証を行った上で改定を進めるべき。
27		遠藤	・ゼロカーボンをめざして達成間近であり、気候危機を心配しなくて良い、魚が戻った自然で美しい海のある藤沢。 ・5G、6G、7Gなどない安心安全なまち。
28		遠藤	・普通に暮らしやすいまち。 ・隣近所の顔がわかるまち。
29		遠藤	・クーポンを配布していたが、クーポン取扱い以外のお店はガラガラになっていた（バランスよく。）。
30		遠藤	・便利になるのはよいが農業生産ができる藤沢市であってほしい。
31		遠藤	・農地等の遊休地や温暖化による親水公園の整備での土地の一部を利用し、ソーラー発電パネルを設置してCO2削減をする。
32		遠藤	・安定した生活の維持と充実した環境整備がなされた成熟した都市、減少する人口に対応した総合施策の下、豊かさを感じずる市民生活の確保がなされている中流意識。 ・公助の範囲の明確化。 ・5G及びデジタル化が進み私たちがこれに順応できるか、意識改革の時代到来。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
33		遠藤	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策。 ・自然環境を意識したまちになってほしい。
34	○	遠藤	<ul style="list-style-type: none"> ・今や各町内で自治会を抜ける人が目立つ。この辺りをテコ入れしない限り町内会の崩壊は時間の問題。真剣に考えるべき。
35		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども，高齢者が安心して歩ける道路の整備。 ・近くに食料が買えるスーパーがある。
36		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中，地域共生社会の実現に向け，支え，支えられ共に生きがいをもてるまちを作ってほしい。
37		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・市民誰もが安心して楽しく暮らせるまち。 ・活気あるまち。
38		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の充実した，箱物行政でない，心の豊かさを感じられるまちになってほしい。 ・首都圏に位置しながら，自然豊かな中核都市を望む。これ以上の自然破壊はやめ，人口減少の中でも税収が維持できるように具体策の検討をしてほしい。
39		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画のしっかりした歩道の整備されたまち。
40		長後	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が少し増えているとはいえ，高齢化に伴い大幅な税収減による市政運営が難しいと思う。
41	○	長後	<ul style="list-style-type: none"> ・安全，安心，豊かな暮らしのできるまちづくり。 ・将来に向けた住みよい都市計画の整備。 ・高齢者等に対する福祉の充実。
42	○	長後	<ul style="list-style-type: none"> ・市の成人検診案内における高齢者の受診料の無料アイテムの拡大化と高額受診料の減額化。 ・学童のみならず老人や身体障がい者が安心して歩ける道路交通整備。 ・コミュニティバスの開通，設置（公共交通機関のない地域。）。
43	○	長後	<ul style="list-style-type: none"> ・長後地区は道路が狭いため，小中学生の通学路が安心安全で通学できるよう希望する（特に，長後小学校に大きな道路を渡るところがあり，待機できるスペースがあると安心だと思う。大きな希望ではないが，ぜひ狭いというイメージをなくしたい。）。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
44	○	辻堂	<ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代にかかる費用をどう下げるかが最大の課題。 ・デジタル福祉，リモート福祉を推進し，団塊の世代にかかる費用を省力化すべき。 ・自分たちの福祉は自分たちでやるべき。財政負担が半分になるように，自分たちで組織を作った方が良い。
45	○	辻堂	<ul style="list-style-type: none"> ・津波，地震対策が重要。一本化した情報の流し方を確立してほしい。災害時に全市民にどう知らせるのが大事。
46	○	辻堂	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の家庭が増え続けるまち。 ・70代の人々が働ける場づくりを積極的に提供しているまち。
47	○	辻堂	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模開発を行わず，自然を残しながら既存の施設等を再整備した美しい街並み。
48		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民が一体となって指針を作るべき。
49		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育機会の平等化。 ・高齢者の介護体制の充実。 ・農地・里山等の自然保護。
50		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・社会も学校もインクルーシブであってほしい。
51		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢は文化のまち。今後も，行政が市民に寄り添う基本理念を続けてほしい。
52		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人と高齢者が共生していけるまちづくりで住み続けたい日本一の市にしてほしい。
53		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者も安心して散歩できるまち。
54		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢人口の減を食い止めるのが最大のテーマだと思う。 ・基本目標6の地域経済を循環させることも大切。
55		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人，高齢者がずっと住んでいたいと思える暮らしやすいまち。
56		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがやりたいことが見つけられ，実施できる環境作り。 ・情報の受発信が容易となるようなICTの推進。
57		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に行きたい時に行きたい場所へ自由に動けるまち。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
58		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のオールドタウン化を防ぎニュータウンに再生。 ・観光ルートの開発，整備。 ・大庭城復元。
59		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしく楽しく本気でやるまち（若い人の参加，仕事をしていても市民参加が可能になる仕組み。）。
60		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域の活性化，区画整理がもっと必要。 ・税金だけで賄う時代ではない。10年20年先を見据えて市の財産を計画的に活用していくことを検討すべき。
61		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスゼロのために自然エネルギー100%利用。 ・若い世代が活躍できる多くの会社がある。 ・自然を残した環境。 ・食料自給率の向上。
62		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・13地区それぞれで，今まで暮らしてきたところで，引き続き静かに暮らせるようになるといい。 ・将来の人口推計（人口構成）に見合った予算配分をしていくべき。 ・将来，心豊かに過ごせるよう今から手を打っておくべき。
63		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・老後が安心して暮らせるまちに。
64		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・鵜沼奥田線が計画道路として位置づけられているが，どのように扱うのか。
65		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・基本目標の中に「豊かな環境をつくる」とあるが，環境といっても様々な環境がある。鵜沼地区では海岸もあるので「豊かな自然環境をつくる」としていただけるとわかりやすい。
66		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政状況とあるが，やりたいことはたくさんある一方，どうやって切り詰めていくのかが見えづらい気がする。
67		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・現状維持で十分。
68		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューノーマルへの対応などを踏まえて，3つのまちづくりコンセプトを追加予定とのことだが，3つのコンセプトでのコロナとの関係性が見えづらい気がする。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
69		鵠沼	・湘南というゆるやかな雰囲気の中で、多様性のある様々な人々がお互いを認めて助け合って生活していけるまちに。
70		鵠沼	・分譲等により緑が消えつつあるため、市の管理地だけは緑を残してほしい。
71		鵠沼	・シンボリックな活動やイベントがあり、市民が日常生活の中で自然と取り組んでいるまち、それを市の自慢、誇りとして発信する。
72		藤沢	・都市マスタープランでは、藤沢駅周辺を都市拠点としているが、藤沢駅周辺だけでなく本町駅周辺までを一体に捉えてほしい。
73		藤沢	・安全安心に暮らせる藤沢。
74		藤沢	・すべての市民にとってやさしい暮らしやすいまち。
75		藤沢	・認知症にやさしいまち。
76		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に耐えうるまちづくり，自治会，町内会単位で避難場所対策をつくる。 ・スマホ活用により，必要な場所（買い物，医療，金融）へ移動できる交通手段をつくる。 ・互助の精神を自治会単位で発揮できる組織強化。
77		藤沢	・SDGsの基本理念「誰一人取り残さない」まちになってほしい。いわゆる弱者をつくり出さない取組を続けた成果のあるまちに。
78		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪，災害のないまちづくり。 ・高齢者が増えるので，核家族化による医療，介護の問題。 ・空き家対策。 ・町内会の役員不足，不参加，隣近所の交流不足。 ・公民館まつりのようなイベントを増やすこと。
79		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢型地域包括ケアシステムに守られて不安のない充実した老後の生活が送れ，住んでいて良かったと言われる藤沢市になってほしい。 ・明治地区で実証実験中の高齢者の見守りシステムを藤沢地区の郷土づくりでも取り組み始め研究中である。近い将来藤沢市全域で高齢者の見守り活動を実現させたい。

	12月5日 以降受付	地 区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
80		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現をめざす。 ・高齢者や子どもが安心・安全に暮らせるまちづくり。
81		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の人たちを「住みたいまち」藤沢に誘導する「まちづくり」。 ・積極活動する町内会，自治会への衣替えが今後ますます課題になる。今こそ市民が喜んで活動する真の「藤沢市型町内会，自治会」づくりを始め，そのことが藤沢市転入希望者への誘導ポイントの一つになると思う。
82		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気のあるまち。
83		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流の場が欲しい。 ・市民の家の活用をもっと多くし，憩いの場にしてほしい。
84		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・これといった期待はない。
85		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心に暮らせるモラルのあるまち。
86		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市の民度の高さを20年後も維持されることを期待する。他市からやってくる人たちが従う「藤沢の掟」のようなものがあったても良い。市民の力でトライするしなやかさを持ったまちになってほしい。
87		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致，地域経済の活性化に取り組み，財政状況を良くする。
88		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や子どもたちが安心して暮らせるまち。
89		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の環境整備（人・車・車椅子が通りやすくしてほしい。）。
90		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩していて楽しい，どこの家からも緑葉が覗いていて鳥のさえずりが聞こえるようなまちになってほしい。
91		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちをのびのびと安心して育てられるような環境，支援をし，高齢者数以上の若者のまちになってほしい。
92		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる「ふるさと」。
93		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に優しい住みやすいまち。
94		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して日常生活を送れるように。
95		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で誰もが住みやすいまち。
96		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・南部（辻堂地区）は道路整備等されているが，北部も大切にしてほしい。

	12月5日以降受付	地区	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
97		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に力を入れたまち。 ・教育に力を入れたまち。 ・ITの利用で進んだまち。
98		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を生かし持続可能なまちに。 ・地元で採れた新鮮な食品で、いつまでも藤沢で生きていたいと思えるまちに。
99		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが幸せに楽しく暮らせるまち。
100		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の長い都市。 ・若い人が希望を持って活躍できる都市。
101		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部だけでなく、市の外れの交通の便が良くなってほしい。
102		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・住みやすいまち。 ・生活環境がよい魅力のあるまち。
103		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・働ける企業があること。 ・安全安心な地区であること。 ・人と人のふれあいが豊かなこと。

※アンケートのほか、意見交換当日にいただいたご意見も含まれます。

イ アンケート「直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと」に関する意見

	12月5日以降受付	地区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
1		六会	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通行区分帯の整備。 ・携帯電話（ながら使用の取り締まり。）。
2		六会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市独自の新型コロナウイルス感染症対策を進めてほしい。
3		六会	<ul style="list-style-type: none"> ・東海地震への津波等災害対策。 ・観光と景観の両立。
4		六会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害（地震，大雨，強風等）に強い体制づくりと，各地域と情報共有できる体制。
5		六会	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の先生がIT授業の技能を身につけ，生徒が100%タブレットを活用できるようにすること。 ・災害，避難所の定員，対応の質の見直し。

	12月5日以降受付	地区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
6		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の充実（市独自の社会保障制度の充実。）。 ・コロナ禍で経済的影響が大きくなる中、ひとり親家族、個人事業主への支援を。 ・SDGs。
7		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・行政のデジタル化，特に各市民の家の有効活用，インターネットWi-Fiの開設，設置。
8		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsは何を目標にするのか。 ・FAX回答は時代遅れ，電子化すべし。
9		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市（町田，相模原，大和，鎌倉，横浜市栄区，茅ヶ崎など）と連携して河川のごみの流入防止と継続監視するシステムを構築し，拡大してほしい。 ・個人情報保護法の藤沢市なりの運用を定め，独居老人，高齢者夫婦，知的障がい者，肢体不自由者の津波，地震発生時の安否確認，救助の優先順位を決めてほしい。
10		片瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな産業誘致による，湘南地域のブランド向上と税収増（IT関連事業を中心としたエリアをつくりブランド化し，エンターテインメント，レジャー関連ビジネスを呼び込む基盤を作る。）。 ・ファミリー層が住みやすいまちづくりを行う。 ・不要不急事業に予算はつけず，メリハリをつけ，前向きなものに金を使う。
11		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての充実。 ・福祉の充実。
12		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての市民がデジタルに対して前向きに勉強する。
13		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の強化（新しい生活様式における新しい防災。）。
14		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断受診率100%をめざし，医療費の削減につなげる。
15		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。
16		明治	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤地区の市街化に向けての相鉄の延伸。 ・慶應義塾大学との連携。 ・市民会館の建て替えでの，魅力のある計画。 ・村岡新駅の具体化。
17		御所見	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が暮らしやすい地域になってほしい。

	12月5日以降受付	地 区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
18		御所見	・農作物の価格安定に取り組んでほしい。
19		御所見	・御所見地区の買い物難民対策。
20		御所見	・医療設備の充実。
21		御所見	・高齢者の住みよいまちづくり。 ・行政の簡素化。
22		御所見	・行政デジタル化の促進と市内どこでもWi-Fiが使用可能になること。
23		御所見	・農業の存続対策の取組。
24		御所見	・子育て支援の充実。 ・空き家対策。
25	○	御所見	・子育て支援の充実に重点的に取り組んでほしい。 ・行政のデジタル化に重点的に取り組んでほしい。
26		遠藤	・環境を配慮した大規模な改革をしたまちづくりと、緑を作る条例がほしい。
27		遠藤	・相鉄いずみ野線延伸の具現化。
28		遠藤	・相鉄いずみ野線の慶應義塾大学までの延伸。
29		遠藤	・自治会組織の構築（加入に対する市の指導）、向こう3軒両隣活動。 ・美化推進活動。 ・道路と歩道間の植え込みの対策。
30		遠藤	・固定資産はメンテナンス費用を計上してから取得してほしい。 ・環境整備ができていない（4年後はできるといい）。
31		遠藤	・自治会等、市の仕事で使えるパソコンがあるとよい（自由に使える事務所的なもの）。 ・役所や公の場所ではWi-Fiが使えるようにすべき。
32		遠藤	・大規模災害での避難で、避難行動要支援者について、自治会に未加入世帯が増える傾向にあり、民生委員は地区内対象のため、両者を含めた組織が必要。
33		遠藤	・無駄な支出を削減し、少なくとも「現状を維持すること」に重点的に取り組んでほしい。

	12月5日 以降受付	地 区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
34	○	遠藤	・ゴミの戸別収集について、現在、回収作業員は若い人が行っているが、将来もこのように若い人が職に就くか心配である。
35		長後	・藤沢市の各部署や各課の横のつながりを作って情報が柔軟に通じるようにし、縦割り行政の廃止。
36		長後	・新型コロナウイルス感染症対策を最優先に取り組んでほしい。
37		長後	・新型コロナウイルス感染症対策。 ・高齢者にもわかりやすいデジタル化の推進。 ・障がい児者、高齢者が安心してまちへ移動できる交通網の整備。
38		長後	・健康第一にする施策のアイデアを出し合い、実現する施策をしてほしい。 ・50代から70代までの世代に積極的DX改革を進めるべき。 ・行政もメール、リモート等を利用できるように。
39		長後	・若者が希望を持てる子育て支援の充実。 ・中学校に給食を。
40		長後	・地震対策に対する上下水道の耐震管の交換。 ・高齢化による買い物不便地域へのコミュニティバスの運行（どこの地域も路線バスの廃止で買い物に困っている人は増えている。）。
41	○	長後	・北部地区の地域商業、経済の活性化。 ・都市計画事業（道路等）の早期実現。 ・高齢者等の弱者が安心できるまちづくり。
42	○	長後	・全市民のコロナウイルス検査の無料実施化（潜伏者の早期発見、早期治療。）。 ・全市民のワクチン接種の無料実施。
43	○	長後	・長後の一番はずれに住んでいるが、厚木基地の関係で引っ越しをしてしまう方が多く、空き地になっている。それをどうするか重点的に取り組んでほしい。
44	○	辻堂	・65歳以上の男性が働ける場づくりを積極化してほしい。
45	○	辻堂	・子育て支援の充実（特に保育所設置、不妊治療の補助。）。

	12月5日以降受付	地 区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
		(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤を充実。 ・自然を守り豊かな環境をつくる。
46		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いコミュニティを作る。 ・新型コロナウイルス感染症による生活困窮者への支援。
47		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちをつくる。
48		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・13地区郷土づくりの委員と年3回くらい話し合いを持って欲しい。
49		善行	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実(行政や企業の思い切った改革によって子育てしやすい市をめざしてほしい。)
50		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・全市民に対して定期的なPCR検査の実施。
51		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実。
52		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命延伸のためのフレイル予防の周知への取組。
53		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂駅と健康と文化の森を結ぶ定時運行できる交通手段の確保。
54		湘南大庭	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。 ・民生委員・主任児童委員の強化。
55		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。 ・税込安定のため企業の育成。
56		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・人を育てる(挨拶, 信頼, 尊敬。) ・先を見据えるぶれない指導力。 ・自然環境との共力, 共有, 共賛, 共生等を最大限に生かしていけたらいい。
57		湘南台	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの歩道の整備。 ・防災(減災)のための準備の見直し(再整備。) ・100t水槽運用の見直し(市民による始動の可能性。) ・各地区, 全避難施設の収容人数の再計算。
58		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート行政。 ・収入増へのアプローチ。
59		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の活性化と, それによる税収の向上による財政の改善。

	12月5日以降受付	地区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
60		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・市税はあくまでも平等に活用することを望む。 ・市税も確保するために市債の発行はやめてほしい。 ・法人税等の税収を上げられる施策が必要。
61		鵜沼	<ul style="list-style-type: none"> ・市のシンボルである「海」から派生して「自然環境を徹底的に守り育てる藤沢市」のための取組を強化してほしい。 ・地球環境を守る重要性についての理解を深め、豊かさ・便利さを追求してきた生活のダウンサイジングの取組（環境負荷を軽減する取組）の強化。
62		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・今後発生する可能性が高い大地震や温暖化に伴う台風や洪水に対する対策。 ・ひとり暮らし高齢者の見守り。
63		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な暮らしを守る。 ・健康で安心な暮らしを支える。 ・子どもたちを守り育てる。
64		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと宿場町再建に力を入れてほしい。
65		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者・避難行動要支援者と市の緊急連絡装置。 ・監視カメラや防犯灯設置などの防犯対策。
66		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者，退職者が地域貢献できる役割グループをつくり，スマホ，パソコンの講師として活躍する。 ・高齢者の初期段階で体力維持できる場を周知して活用させる。 ・自然を大切に後世に伝える。 ・歴史を大切に後世に伝える。
67		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想に合わせた社会教育を。 ・コロナ禍に応じた意見集約の方策として Zoom などの活用。 ・オリンピック・パラリンピックのレガシー含む歴史的遺産の保存，活用。
68		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢宿を守り育てる（言葉だけではない具体的な取組が必要。）。 ・行政のデジタル化（職員とメールのやり取りができるように元のシステムに変えてほしい。）。

	12月5日以降受付	地 区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
69		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ, アフターコロナ時代を踏まえ, 藤沢市の南北に感染症の外来診療/専門病棟と軽/中等症の施設を早急に整備し, 市民病院を一般病気の病院として確保に取り組んでほしい。
70		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策が遅れている。 ・施設人が訓練不足。 ・町内会の会長が任期1年で代わる例が多く, 町内会がうまく運営できてない。 ・町内会同士交流して仲良くなるとよい。 ・ボランティア活動の推進。
71		藤沢	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。 ・子どもと高齢者が安全に暮らせる対策（交通事故減少や行方不明者をなくす。）。
72		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実。 ・防災対策。 ・高齢者向け医療の充実。
73		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力アップ。 ・高齢者の活用, 動けるうちにボランティアを。
74		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりとした収入源を確保し, 充実していくこと。
75		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯が住みたいと思うまちづくり。 ・新型コロナウイルス対策に積極的に取り組むべき。 ・モラル優先のまちづくり。
76		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。 ・教育対策。
77		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難行動要支援者対策の個別支援計画については, 市の主導により進めてほしい。
78		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。 ・災害対策。
79		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策（予防注射ができるようになったら全世代無料にしてほしい。）。 ・子育てと同じように高齢者, 障がい者も生活しやすい環境を進めてほしい。

	12月5日以降受付	地区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
80		村岡	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に助けを必要とする人たち（幼児，障がい者，高齢者）に優しい社会を作ってほしい。 ・情報端末の扱い方を市が主導して高齢者に行き渡らせてほしい。
81		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症のPCR検査が簡単にできるように。 ・南北地域の交流をもっと盛んに。
82		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が収束するよう重点的に取り組んでほしい。
83		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・行政のデジタル化は急務と考える。
84		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害，震災の対策，市民への情報提示（シミュレーション映像等。）。 ・農地，自然の確保。 ・職員の教育，適切な人事。
85		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂駅C-X周辺の土日の渋滞の緩和。 ・東海道を横切る南北道路の整備。
86		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て。 ・高齢者福祉。 ・環境。
87		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策。
88		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援（子育て世帯すべてに反映させるべき。）。 ・北部について，農業産業を売りにする（新しい取組。）。 ・少年の森（川崎のような楽しい公園づくり，夢パークや大師公園等子どもを育む内容。）。
89		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・新駅，村岡新駅の取りやめ。
90		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア，ヘルパーなどのなり手が減っており，増やす対策。 ・子どもの貧困をなくす。 ・誰もが移動しやすい交通の充実（免許返納者が増えるよう，バス路線の充実，自転車専用道の充実。）。
91		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化は反対（子育てと高齢者の世話が30～50代にのしかかっている。）。

	12月5日 以降受付	地 区	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと（一部要約）
92		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障が安心できる市。 ・ 高齢化に伴い公共インフラの整備。 ・ 若い人が住みやすい魅力のあるまち。
93		無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何人も生きる収入を得られる。 ・ 健康で暮らせる取組を。 ・ 安心して暮らせる取組を。

以 上

関係団体・協議会等からの意見募集の実施結果

新たな市政運営の総合指針の策定にあたり、関係団体、協議会等から幅広くご意見をいただくため、各部局と連携し、20年後の藤沢市の姿及び直近4年間に最も重点的に取り組むべきことについて、意見交換・アンケート調査を実施しました。

結果については、次のとおりです。

1 意見交換・アンケート調査の依頼先等

年月日	団体名等	方法等
令和2年10月26日	経済3団体連絡会議	意見交換方式
令和2年11月4日	藤沢商工会議所正副会頭会議	意見交換方式
令和2年11月6日	藤沢市防犯連合協議会	アンケート方式
令和2年11月10日	藤沢市幼児教育協議会	アンケート方式
令和2年11月10日	藤沢市生活環境連絡協議会	アンケート方式
令和2年11月13日	藤沢市幼稚園協会園長会	アンケート方式
令和2年11月13日	藤沢障害福祉法人協議会	アンケート方式
令和2年11月17日	藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	アンケート方式
令和2年11月18日	藤沢市青少年育成協議会	アンケート方式
令和2年11月19日	藤沢市青少年指導員協議会	アンケート方式
令和2年11月25日	藤沢市民生委員児童委員協議会 会長会	アンケート方式
令和2年12月1日	藤沢市民間保育園園長会 (社会福祉法人立の園)	アンケート方式
令和2年12月3日	藤沢市老人クラブ連合会	アンケート方式
令和2年12月4日	法人立保育所の園長会 (社会福祉法人立以外の園)	アンケート方式
令和2年12月11日	小規模保育事業所の園長会	アンケート方式
令和2年12月18日	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	アンケート方式
令和2年12月22日	各地区の自治町内会連合会会長	意見交換・アンケート方式
令和3年1月13日	湘南地域連合議長，事務局長	(概要説明のみ実施)
令和3年1月14日	小学校校長会役員会	アンケート方式
令和3年1月14日	中学校校長会役員会	アンケート方式

2 提出結果

- (1) 提出団体 19団体
 (2) 提出者数 117人
 (3) 意見数 493件

3 提出された意見について

(1) 意見の内訳

区分	政策分野	20年後の姿		直近4年の重点取組	
		回答 件数	割合 (%)	回答 件数	割合 (%)
1	安全な暮らしを守る	31	11.8	24	10.4
2	文化・スポーツを盛んにする	10	3.8	3	1.3
3	自然を守り豊かな環境をつくる	25	9.5	7	3.0
4	子どもたちを守り育む	27	10.3	55	23.9
5	健康で安心な暮らしを支える	43	16.3	55	23.9
6	地域経済を循環させる	30	11.4	17	7.4
7	都市基盤を充実する	25	9.5	33	14.3
8	市民自治・地域づくりを進める	35	13.3	15	6.5
9	その他	37	14.1	21	9.1
合 計		263	100.0	230	100.0

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

(2) 意見の概要

※令和2年12月18日の議員全員協議会で報告した12月4日までのご意見に加え、
 12月5日以降にいただいたご意見には、「○」印を表示しています。

ア アンケート「20年後の藤沢市の姿」に関する意見

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
1		藤沢市防犯連合 協議会	・交通の利便性を生かしたスポーツ、文化、イベントで人を多く集めることができるまち。 ・犯罪のない安心して生活できるまち。
2		藤沢市防犯連合 協議会	・本市の基本理念の文言がめざす都市像として述べられているが、災害等の問題として考えると緑豊かな住みやすいまちに。これ以上の都市開発は

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	止めるべき。
3		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢都市にならぬよう。 ・若者が集う都市になるよう。 ・仕事場，学びの場の充実のため，企業，学校の誘致。 ・税込アップのためにも。
4		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災，減災への取組の充実，13地区それぞれではなく南部，北部での検討が必要。 ・交通の空白地帯解消のため，遠藤～湘南大庭に5万人規模の宅地を通る電車が必要。若い世代，子育て世代の参入のためにも検討すべき。
5		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から高齢者までが安全で安心して過ごせるまち。
6		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人の夢を受け止めるまちになってほしい。 ・公共交通の利便性を高め，歩いて暮らせるまち。
7		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市の特性を活かした政策を推し進めることにより，今以上に魅力のある都市になり，ずっと住み続けられるまちになってほしい。 ・さらに安全で安心して暮らせるまちになってほしい。
8		藤沢市防犯連合 協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・働きたい仕事のあるまち。 ・子どもを育てていきたいまち。
9	○	各地区の自治町 内会連合会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が住みやすいまち。 ・交通機関の整備。 ・大学の誘致。 ・企業の誘致。
10	○	各地区の自治町 内会連合会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かなゆったりとした都市（本当の資本主義，民主主義の恵みをもたらす）。電力はすべて自然エネルギーでまかなえるような空間を作ってほしい。

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
11	○	各地区の自治町内会連合会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然と住環境を実感できるまち。 ・地域の中で互いに助け合い、安全安心な暮らしを実感できるまち。
12		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、高齢者、障がい者、生活困窮者などが安心して暮らせるまち。 ・子どもたちの世代に少しでも経済面で不安のないまち。
13		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・秋葉台文化体育館周辺の土地を確保し、一大スポーツ公園を造り、地下鉄の延伸と絡めて北部地域の活性化を図るとともに、健康で明るく楽しい市民生活が送れる市となつてほしい。
14		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険料が5千円以下となり皆が元気に過ごす。 ・0～60歳代が多く、世代間交流が盛ん。 ・観光業、生産業が盛ん。
15		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、障がい者、高齢者、生活困窮、DV等の機関に相談しても、必ず対応してくれる相談機関につながるまち。 ・孤立せず、地域で支え合い、隣近所の支えがあるまち。
16		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の公共施設の多くがオリンピック直後に建設されており、2040年まで施設の建て替えは莫大な資金が必要だが、順次建て替えの検討をお願いしたい。 ・2020年以降の超高齢化社会に適応できる、藤沢市の恵まれた環境をフル活用した都市づくり、地域の環境整備ができることを願っている。
17		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・これから少子高齢化社会がますます進展していく中で、フォーマルな福祉サービスだけでは十分に対応できないことが予想される。したがって、今後は自助と公助の取組が肝要と感じる。自助と公助の先進的な取組を行う藤沢市であつてほし

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	い。 ・障がいのある人もない人も分け隔てなく生活できる藤沢市であってほしい。
18	○	藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・立地や疾患、家族構成などにより、福祉の相談がしやすくなるような環境づくり。
19	○	藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・試算においては約40%もの高齢者の増加が見込まれており、元気な高齢者が多いまちであることが必要だと思う。
20	○	藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・市内各地域での豊かな福祉力が広がり、お互いに協力し合う笑顔のまち。
21		藤沢市民生委員児童委員協議会会長会	・住み慣れた地域で心身ともに健やかな暮らしができるまち。 ・地域と連携し子どもから高齢者が安全で安心な暮らしができるまち。
22		藤沢市民生委員児童委員協議会会長会	・藤沢市市政運営の総合指針2024改定素案の具現化ができているまちになってほしい。
23		藤沢市民生委員児童委員協議会会長会	・安全な暮らし（救急、消防、警察等の支援体制が一本化され、災害時に誰も取り残されずに情報が届くような制度が整い、人々の往来に危険がなく道路が整備されている。）。 ・文化都市として美術館、ホール、運動施設の充実と各公民館が文化施設としての機能を備えている。 ・環境（持続的な環境保全について子どもの頃から教育がされ、市民の意識にばらつきがない。）。 ・子どもたちと大人が関わりあえる場所が普通にある。 ・高齢化社会を支えるのは地域だけでなく行政と民間で安心できる施設を運営し数も充足してい

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済についても、福祉施設の整備ができればテレワークの移住組が来やすい環境になる。 ・都市基盤の整備についても、ユニバーサルデザインによる道路が必要。
24		藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者のためにシャトルバスの充実。 ・福祉も大事だが、認知症の予防のため高齢者向けの学校、子どもたちと一緒に学べる場所を作り、給食、体操、演奏会、すべて、子どもたちと交わり、半日カリキュラムでよいので、人生を長く生きてきた人たちから子どもも学んでいくというのはいかがか。
25	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源を見込んだ地域開発の充実したまちづくり。 ・工業団の誘致による総合的な豊かな市になってほしい。
26	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害（特に津波、土砂災害）に強い安全なまち。 ・道路、区画整理を行う。 ・緑豊かなまちを目指し、乳幼児、高齢者、障がいのある方など、誰もが安心して暮らすことのできるまち。 ・交通網の整備（コミュニティバスの運行など）。
27	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでみたいまち、ずっと住み続けたいまちになってほしい。 ・基本目標1～8にある2040年の藤沢市がめざす姿が実現できたらよい。
28	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網形成（例：立体交通。）。
29	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・2040年まで生きたいと思える都市。 ・AI、通信デジタル機能等を活用し、人間の尊厳をもって生活できる絆社会。

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
30	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛あふれる藤沢を理念に、市民一人ひとりが地域社会に目を向けるよう、地域を理解できるようなことを発信してほしい。 ・子育て支援には、特に力を注いでほしい。
31	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後といえば、現在進行中のいずみ野線も遠藤地区に入ってきて、A駅B駅そして、健康と文化の森も整備されて、現在の景観から、都市化された遠藤に変わっていることは歴然たるものと思っている。現在の自然の風景に都市化の波が入ってきて、その地域の流れが混然と一体となった地域に変わっていると思う。すばらしき地域の発展を遂げた姿を希望する。
32	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康年齢100歳（数，率），日本一。 ・歯周病等伝染病対策を徹底する。 ・自宅において最後まで生活者（数，率），日本一。 ・近隣愛（向こう三軒両隣。）。
33	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の委員会（定例会）に出向いて生の我々の声を聞いてほしい。 ・行政（公助），自助，共助のトライアングルを踏まえ，より住むことの特性を生かした政策を考えてほしい。
34	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉が行き届いているとともに，課題を抱えた人たちや子どもたち，子育て中の親が孤立することなく相談窓口が充実し，安心して暮らし続けることができるまちが築かれている。 ・商業，工業，農業，水産業，観光地等が一体となった個性ある地域が誕生している。 ・道路行政が進み，複数の幹線道路が南北に延び，人，車の移動がスムーズになっている。さらに，主要な道路には歩道が整備され，乳幼児を連れた人たちも安心して歩けるようになっている。

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・南部と北部の地域格差がなくなり，特に北部地域の活性化が図られ生き生きと生活できるようになっている。
35		藤沢障害福祉 法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりコンセプト3「インクルーシブ藤沢」のような市。 ・基本目標2「文化・スポーツを盛んにする」に示されたような歴史に根付いた文化水準の高い市。
36		藤沢障害福祉 法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に関わらず元気な高齢者が生涯現役で納税者になり財政を支え，誇りを持って生きているまち（生産世代減少対策。）。 ・若い世代が子どもを生み育てたいと思える子育てに優しいまち。 ・高齢者，障がい者，外国籍，トランスジェンダーの方等，社会的弱者やマイノリティに寛容で誰もが大切にされその人なりの役割が持てるまち。
37		藤沢障害福祉 法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・故郷として誇れるまちの姿をめざす「3つのまちづくりコンセプト」の実現を希望する。SDGsの視点を取り入れた考えに賛同する。 ・「8つの基本目標」の中でも『5 健康で安心な暮らしを支える』について，ウィズコロナ・アフターコロナ時代の新しい日常が根付き，それを支える制度設計の確立とマンパワーの確保が重要な課題。 ・地域の中でさりげない見守りの風土が根付き，誰もが安心して生活できる藤沢市であってほしい。
38	○	藤沢市老人クラ ブ联合会	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南の理想郷（ユートピア）として藤沢市は住みたいまち，住み続けたいまちとして全国1位にランクされるまちになってほしい。 ・特に，高齢者，障がい者，「生活弱者」と言われる人たちに対し，北欧諸国のように地域の人たち

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	が率先して「互助」活動ができるプラットフォームを構築し、皆が誇りを持ち安心して快適に暮らせるまちになってほしい。
39	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアに手厚い安心，安全な暮らしができる藤沢市になってほしい。 ・介護施設，介護士，十分な職員数と待遇改善を。 ・洪水被害のないまちに。 ・川をきれいにして，ホテルが飛ぶ環境づくり。 ・少人数学級の実現。 ・外国人との共生（施設も）。
40	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまち（今後予想される大規模災害に対してさらなる対策を望む）。 ・市内を流れる河川の治水強化。 ・電柱の撤去（送電線の埋設化）。 ・子どもから老人まで誰もが暮らしやすいまち（特にバリアフリー歩道の整備を進めてほしい）。
41	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体のことはわからないが，自分が住んでいる遠藤地区は今でも交通が不便な地域がある。何事も市民センターが中心になるが，センターまでの交通をどうするか。自動車もダメ，高齢で足が悪い。センターを中心としたコミュニティバスを運行してほしい。 ・人生100年？高齢者のいないまち。
42	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して歩ける道路が必要だと思う。
43	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・生活弱者が機械化，デジタル化等に頼らない生活ができるような環境にしてもらいたい。 ・生活弱者が安心した生活ができる環境にしてもらいたい（医療，住宅等）。

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
44	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに増える高齢者が安心して最期を迎えることができるまち。 ・在宅医療，在宅介護が利用しやすい制度と体制づくり。
45	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・週末時の道路の渋滞がひどいので道路整備をしてほしい。道路の整備と環境都市。 ・災害時の一時避難所の確保で安心して暮らせるまちに。
46	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や犯罪のないまちづくり。 ・高齢者の運転免許の早期返納制度を取り入れ，それに代わる地区内無料バス等に取り組んでほしい。
47	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・南部地区は道路があまりにも狭く，災害等では消防車も入れない。計画的な区画整理ができた住宅地であってほしい。 ・市にふさわしい美術館や芸術劇場等文化的設備があるまち。 ・リタイアした高齢者がしっかり学べるシルバーカレッジ的な学べる場がほしい（例：神戸市のシルバーカレッジ）。
48	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災環境がさらに整備。 ・活性化につながる江の島，鵜沼海岸等をベースとした観光資源の開発を進める。 ・有形，無形を問わず歴史と文化遺産を維持継承するまち。 ・風力，波，太陽光等を利用し自給自足の発電を進める。 ・高齢者，障がい者，子育て世代が住みやすい安全，安心なスマートシティ。
49	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・弱者が安心して暮らせる藤沢市であるように，災害に強い市であること。

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
50	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致と市政の無駄をなくして財政を豊かにし、全国的に著明な藤沢ブランドの農産物をいくつか重点的に開発する。 ・次世代のため、子育て中の女性が経済的に困らない取組を重ね、子育てしやすいまちに。 ・安全安心で暮らしやすいまち。 ・緑豊かに。 ・デジタル先進地の藤沢市になってほしい。
51	○	藤沢市老人クラブ 連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・若手、中堅層（これからの世代を担う方々）に手厚い施策を持った市になり、彼等が安心して暮らせる魅力ある都市になってほしい。
52		藤沢市幼稚園 協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉の充実。 ・教育の充実。 ・生活環境の充実。 ・世代を超えたつながりができるようなまちであることを期待する。 ・地域全体の活性化「住みやすいまちふじさわ」をめざしてほしい。
53		藤沢市幼稚園 協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の人間形成に大切な時期を専業主婦、在宅ワークなどで子どもと共に過ごす家庭のためにも、幼稚園が今のままあり続けてほしい。 ・海のある温もりのある子育てのまちであってほしい。
54		藤沢市幼稚園 協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに基づく共生と地球を守るまちになってほしい。
55		藤沢市幼稚園 協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・近代的都市化ではなく、海があり緑に囲まれている自然を生かし、それらが生活の中に取り入れられたどの世代にも住みやすい環境づくりをめざしてほしい。 ・藤沢発の生産物を増やし、安心して住み続けられるまちづくりを。 ・子育ての環境が整備され安心して暮らせるまち

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	づくり。 ・高齢者や障がい者等不自由な生活を余儀なくされている方への環境整備。 ・女性の就労を推奨するだけでなく子育てを重視し両立できる環境づくり。
56		藤沢市幼稚園 協会園長会	・医療制度が充実したまちになってほしい。 ・教育環境の充実したまちになってほしい。 ・安全で暮らしやすいまちになってほしい。
57	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・藤沢市で育った子どもが地元を愛せるまちになってほしい。 ・在園児は20年後、大学生や社会人等になっているが、自己表現が十分でき、多様性が認められるよう育ててほしい。
58	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・20年後には私も高齢者になっていることを考えると、安全で安心な暮らしができるようになっていれば良いと思う。
59	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・多様性を認め合い、礼儀正しく、助け合える文化があるまち。
60	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・安全、治安の良いまち。 ・人が集まる緑ある広場やスペースが多く点在するまち。 ・利便性に向けた開発がされたまち。 ・自然を身近に感じられるまち。
61	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・いつまでも海がきれいなまち。 ・畑や田んぼがあるまち。 ・森や林があり自然が残るまち。 ・福祉にやさしいまちでいてほしい。 ・住みやすいまちNo.1をめざす。
62	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・エコで自然を愛するまち（現在、海岸清掃の活動や3Rの活動がこれまで以上に広まっているが、20年後には3Rが日々の生活の中に十分浸

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	透しているとうれしい。そのために、3Rの取組を積極的にしている市民が、その取組をすることがクオリティーオブライフに直結すると望ましいと思う。)
63	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・地域全体で子育てや高齢者のサポートをすることが当たり前まち(夕方のチャイムを鳴らす際に、「子どもは帰り、大人は子どもが安全に帰れるように促して」と呼びかける市があり、参考にできると良いと感じた。)
64	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・経済が豊かな都市。 ・福祉が豊かな都市。
65	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	・やはり、住みやすいまち。
66	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	・藤沢市内の地域差が様々な面で大きい現状を打破してほしい。地域の温度差の少ないまちにしてほしい。
67	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	・2040年には、女性の就職率を高め、藤沢市全体の生産年齢人口の割合を増やしてもらいたい。 ・そのために、子育て世代のニーズに合った公共サービスや施設の整備を行い、教育、福祉の充実したまちづくりをしてほしい。
68	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	・子どもたちが安全で安心して住めるまち。
69	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	・多種多様な人間、誰に対してもわかりやすく、生活しやすいまち(道の標識、案内板、ゴミの出し方など。)

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
70	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさが感じられる快適な都市空間を大切にする。 ・安全でいつまでも健康に住み続け、生き生きと活動が続けられるまち。 ・人と人とのつながりを大切に、子どもを安全に安心して産み育てられるまち。
71	○	法人立保育所の園長会(社会福祉法人立以外の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、若い世代が少なくなっている中、子どもを育てやすい環境整備をしてほしい。若い世代が藤沢市に根付くような市となってほしい。 ・高齢者にとっても、住みやすく医療や施設等も充実させてほしい。
72	○	法人立保育所の園長会(社会福祉法人立以外の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからお年寄りまで暮らしやすいまち。 ・自然豊かなまち。 ・観光地としての発展をしながらも、その地で暮らす人々も不便を感じないようなまちづくりをしてほしい。
73	○	小規模保育事業所の園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての年齢や職業の市民が住みやすいまちになってほしい。
74	○	小規模保育事業所の園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備。子どもたちが犠牲になることのないような整備を強く願う。 ・藤沢の古き良きものは残しつつ、発展に伴う新たなものも必要と思う。
75	○	小規模保育事業所の園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者、子どもたち等が安心して暮らせるまちであってほしい。(例えば、営利ばかりを求める高齢者施設、障がい者施設ではなく、生活保護受給者でも安心して暮らせるグループホームづくりを推進する。保育園も公立園が減少し、法人立園の増加により、営利重視で本来の「子どものための保育」、「保育士が安心して長く勤める環境」を確立することが難しくなるように感じる。行政はそのような現実をしっかりと受け止め、20年後の市民が住みやすい環境整備を実施

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
		(続き)	してもらいたい。)
76	○	小規模保育事業所の園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を支えられるような人口数。 ・市内に企業を誘致し、財政の安定を図る。 ・子どもたちが伸び伸びと遊べる公園や広場がある。
77		藤沢市幼児教育協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉面の充実、幼児、高齢者が安心して住めるまち。 ・緑豊かで多様な生き物と共存するまち。 ・市民が安心して生き活きと暮らすまち。
78		藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが犯罪に巻き込まれることのない、安全安心な藤沢市。 ・子どもたちが伸びやかに暮らせる藤沢市。 ・インターネットの普及で知識や情報は豊富になっていると思うが、体験から学ぶ大切さも忘れずに育てほしい藤沢の子どもたち。
79		藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症。 ・自然災害に強い市政になってほしい。 ・地域との連携を強化し、ボランティアによる市政参加の道を求め、青少年の健全育成を優先してほしい。 ・青少年、障がい者、高齢者がお互いに助け合える市政を目指してほしい。
80		藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや高齢者、弱い立場の人にやさしいまちに。 ・安全で安心して暮らせるまちになってほしい。
81		藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市の南北に広がる土地を生かして第1次産業、第2次産業、第3次産業のバランスのとれたまちになってほしい。そうすることで、「衣食住」＋「生活する中での楽しみ」を藤沢市の中で体感できる。

	12月5日 以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
82		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困のない子どもから年寄りまで安心して暮らせるまち。 ・ 子育て世帯も独身も若者も一人暮らし高齢者も孤立しないまちづくり。
83		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ袋が高いのでもう少し安くしてほしい。 ・ 税金も住民税等が高い。 ・ 水道料金も下水料金もなしにしてほしい。
84	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者にとって住みやすくやさしいまちを望む。
85	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が増える中で、医療、福祉の充実した、お年寄りが住みたいまち1位になってほしい。
86	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島は藤沢市にあることを世間の人知らないことが悔しく思う。 ・ どの地区からも富士山が美しく見える電柱のない車道，自動車道，歩道の広い，誰もが住みやすく過ごしやすいまちであってほしい。 ・ 公園，ボール遊びのできる広場，老若男女みんなが健やかに過ごせるまちであってほしい。
87	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形式的でなく，意義ある，持続可能な市民自治活動，地域づくりをしていけるまち。
88	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども，大人，老人が，今以上に安全かつ健やかに，快適に暮らせる藤沢になってほしい。
89	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もがいきいきと自分の力を発揮し，取り残されることのない，力強いまちになってほしい。
90	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便利で住みやすい都市。
91	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和であたたかなまち。
92	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世帯が住みやすく（定住してもらえる），老人や障がいのある方に配慮のあるまちづくりである市になってほしい。 ・ 企業誘致をし，雇用のあるまちになってほしい。

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
93		藤沢市青少年育成協議会	・車のいないまち（徒歩や自転車や電動コ ミューターで大体の用が済ませるまち。）。
94		藤沢市青少年育成協議会	・一人ひとりが大切にされる藤沢市であってほ しい。
95		藤沢市青少年育成協議会	・今の自分にはどう変化していくか想像もつか ない。 ・ITが進み、日常生活に溶け込むだろう。 ・子どもたちにはどんな時代になっても未来が ある。故郷として住んで良かったと思えるよ うなまちになってほしい。 ・伝統と文化は引き継いでほしい。
96		藤沢市生活環境連絡協議会	・地区の環境美化の意識の高揚（公園脇、河 川脇、道路脇にごみのポイ捨てをしない地 区に。）。
97		藤沢市生活環境連絡協議会	・子どもも高齢者も安心して暮らせるまち。 ・デジタルが進んだとしても人と人とのふれ あいが希薄にならないような福祉が充実し たまちになってほしい。 ・緑が残っている。 ・市民生活に大切な道路が守られている住 みやすいまち（繁華街に車の渋滞が起きな いようなまち。）。
98		藤沢市生活環境連絡協議会	・すぐに実行，藤沢市から。 ・きれいで住み良いまちづくり。
99		藤沢市生活環境連絡協議会	・自然環境を次世代に引き継ぐための未来 共生社会の実現。 ・誰一人取り残さないまち。
100		藤沢市生活環境連絡協議会	・きれいで住み良いまちづくりを継続し、 市民一人一人が清潔で住み良い場所、環 境衛生思想の向上。
101		藤沢市生活環境連絡協議会	・時代はすさまじい勢いで情報化が進むと 思いますが、効率化だけの行政でなく、 市民に温かくて思いやりのあるまちに なってほしい。

	12月5日以降受付	団体名等	20年後の藤沢市の姿（一部要約）
102		藤沢市生活環境連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南の一部として、藤沢市らしさのまちづくり。 ・安全安心な暮らしができるような市。 ・子育てがしやすい市。
103		藤沢市生活環境連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南の元気都市の中心に藤沢市がその位置を占められるように、発信力のある市になってほしい（湘南市を実現するのも一つの方向性。）。
104		藤沢市生活環境連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と文化の森地区にいずみ野線が延伸されて、農業系、商業系、産業系本地区特有のまちづくりができていると思う。
105		藤沢市生活環境連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者、みなが安心して生活できるまちになってほしい。
106		藤沢市生活環境連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には文化活動の施設が多々ありますが、地域差がある。地域差解消のため例えば長後地区等に5,000人～6,000人入場できるようなライブ可能な多目的ホールを作り、地域の活性化を図ってはどうか。
107	○	小学校校長会 役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、地域で子どもたちを見守り、育て、安心して生活でき、配慮が必要な（障がいがある、外国につながる、貧困等）子どもやその保護者に優しいまち。 ・教員の人員が十分かつ教育力の質が高く、公教育だけで確かな学力が保障でき、子どもたちが安心して通える教育環境、学校施設が整ったまち。
108	○	中学校校長会 役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境が充実したまち。 ・子どもにとっても大人にとっても安心して生活できる住みやすいまち。 ・緑豊かなまち。

イ アンケート「直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと」に関する意見

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
1		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・村岡新駅を止めて、スポーツ施設をつくるか、今の市民会館を建て替える。 ・迷惑電話防止機能電話機の取り付けは特殊詐欺等に変効果的なのでより広く周知する。
2		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の増進のために地域住民の生活状態の把握、生活困窮者の保護、指導等が不十分、民生委員の増加。 ・新型コロナウイルス感染症対策の中で進められているWeb会議、オンライン化が進むと人と人との郷土愛関係が今後どのようなようになるか。 ・少子高齢化問題。
3		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自治、地域づくり。 ・子育て。 ・安全な生活ができる。 ・失業者対策の見直し。 ・犯罪のないまちづくり。
4		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・若い共働き世帯が多く住む都市になるよう、子育て支援の充実は必須。
5		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・防災面の見直し。南部と北部での被害の違いは明確であり、それに則した内容で具体的に準備が必要。
6		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の都市計画の根本的な見直しを含めたまちづくり（当初の都市計画から50年以上が過ぎて、現実的に実行、施行が可能かを考慮した再考。）。
7		藤沢市防犯連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症で経験したことの無い状況が現実となっている今、経験したことの無いチャレンジをする覚悟と勇気を持って医療対策にあたってほしい。 ・同理由により経済対策にあたってほしい。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
8		藤沢市防犯連合協議会	・子どもの監視システム（危険回避のために。）。
9		藤沢市防犯連合協議会	・若い世代が安心を感じる取組。
10	○	各地区の自治町内会連合会会長	・高齢者が住みやすい施設や交通機関の拡充。 ・団地などにエレベーターなどの設置又は新しい団地への改築の援助。 ・福祉設備の充実。
11	○	各地区の自治町内会連合会会長	・健康長寿日本一をめざすこと。 ・交通支援事業は廃止し、脱炭素化へ（買い物、医療、介護は別々の方法で。）。 ・子育て支援の充実。
12	○	各地区の自治町内会連合会会長	・住生活環境の向上（特に引地川の遊歩道整備。）。 ・移動しやすい交通体系の構築（自転車道の整備、相鉄いずみ野線の早期延伸。）。 ・人材育成の推進。
13		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・福祉医療の充実（高齢化対策、少子化対策、感染症対策。）。 ・福祉関係職員（従事者）の処遇改善（施設職員に限らず。）。 ・高齢者の足として北部方面のコミュニティバスの充実、新設。
14		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・子どもころから障がい者、認知症、高齢者など福祉に対しての教育を行い、福祉に対しての理解を深め、福祉の仕事や地域活動に関心を持ってもらい、20年後の担い手になってもらう。 ・役所の手続き、書類等の簡素化、合理化を図り、経費の削減及び高齢者や障がい者でもわかりやすい行政システムの構築に取り組んでもらう。
15		藤沢市地域包括支援センター連絡協議会	・介護保険サービス、総合事業に頼らない継続的な介護予防。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
16		藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・いまだに、相談してもたらい回しになるケースがある。形式上ではなく、対応者個々人の意識改革も含めて、早急に対応すべきだと考える。個人情報は大切だが、相談機関や病院等が、必要時にうまく連携が取れる体制づくりや精神疾患のケース等保健所の専門性のある立場で、相談機関をもっとバックアップしてほしい。
17		藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・防災、災害対策の充実について重点的に取り組んでいただきたい(近年の地球温暖化による風水害の被害が心配。過去に藤沢橋、片瀬橋が流され、交通に多大な影響がでたことを経験している。柏尾川の水害対策により地域の被害を食い止め、産業、住民の影響を少なくしてほしい。)
18		藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・老い支度の推進(人生会議、成年後見制度、終活ノートなどの普及活動)。 ・介護、福祉従事者の人材確保政策。
19	○	藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・ちょっとした支援を必要とする人とボランティアができる方をつなぐネットワークの整備。
20	○	藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・公共施設の老朽化などにより地域の高齢者の集いの場が減ることが予想される。老人センターと称されるような年齢限定の場ではなく、幅広い世代の交流と居場所となる場所が多く必要だと思う。
21	○	藤沢市地域包括支援センター 連絡協議会	・積極的に福祉施設の複合化を進め、相互の連携やプラスプラスの関係強化を推進し、地域の福祉力の充実と豊かさを高める。
22		藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・新型コロナウイルス感染症対策の影響で財政状況も厳しいと思うが、経済対策を最優先に取り組んでほしい。特に藤沢駅周辺の商業機能の強化。 ・交通利便性を考慮してミニバス等の運行をお願いしたい(交通渋滞の解消。)

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
23		藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要支援者名簿と民生委員の現況調査，警察，消防の持つ緊急時の情報支援体制の一本化を早急に作ってほしい。自治会の名簿受領の返事を待たずに，行政の要請で進めてほしい。大規模災害時，混乱するのは目に見えている。 ・インクルーシブ，ダイバーシティ，循環型社会と聞こえはよいが具体的に子どもや子育て世代に特に教育を充実してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により，ジェンダー意識も20年後退するとも言われている。男性に対しての意識改革が必要。 ・行政のデジタル化，ワンストップサービス→選挙もオンラインで投票できるようになるとよい。
24		藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症という大きな時代の変革を迎えている今，不安な生活，不幸な子どもたちをなんとか救済してあげてほしい。 ・ヤングケアラーのため学校に行けない児童や青年たちが気軽に相談できる窓口，連絡場所を学校と連携をとり少子化の子どもをみんなで助けていく行政的な指導がほしい。
25		藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の十分な健全性の継続。 ・インクルーシブ藤沢，全てに包括的な藤沢であり全員で誰一人取り残さないまちづくりを。 ・駅前のお朽化した市の顔の大規模商業施設の産業機能の強化。
26	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地区の開発。 ・工業と農業の両立できるまち。
27	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による経済対策に取り組んでほしい。 ・ひとり親世帯への対策。 ・学生への支援。 ・リストラ，減給による生活困窮（ローン滞納等）

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
		(続き)	による生活に変化を来した人への対策。 ・小学校の教室不足(特に市南部)の解消の取組をお願いしたい。
28	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・女性が仕事を続けるための保育園, 学童保育の完備。 ・在宅医療, 在宅介護の充実。 ・コロナ対策。
29	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・災害に強い地域づくり。 ・子どもたちが夢をもって頑張るためのサポートづくり。
30	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・地域ひきこもりのない持続可能な施策。 ・地域イベント, 祭りなど身近なところから, 地区そして市全体へ広がる誰でも参加でき, 楽しみを感じるまちづくり。
31	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・新型コロナウイルス感染症を防ぐため, 市民が安心して生活できるように, すべての市民が市からの発信を待っている。 ・災害に備え, 災害対策に取り組んでほしい。
32	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・早いところいずみ野線が入ってくるのを期待する。 ・子育て支援の充実は大いに必須と感じている。
33	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・自治会の強化(自治会入会率100%の義務化, 老人会入会率90%)。 ・医師業界(協会)の組織強化。
34	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・新型コロナウイルス感染症に対する見える対策を考えてほしい。 ・子育て支援の充実したもの。 ・空き家空き地の有効活用を考えてほしい。
35	○	藤沢市民生委員 児童委員協議会 会長会	・福祉の充実に取り組んでほしい。課題を抱えた人も含め, すべての人たちが同じ環境の中で住み続けられるようにしてほしい。 ・地域を支えるボランティアの育成システムの構

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
		(続き)	<p>築に取り組んでほしい。民生委員をはじめ、自治会、社協、地域の団体を支えるボランティアを確保するのが難しい状況となっていることから、行政的に検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物に困らない環境の整備に取り組んでほしい。身近な商店街の再構築やスーパーの適切な配置に取り組んでほしい。
36		藤沢障害福祉法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢型地域包括ケアシステムの中期目標の着実な実施。
37		藤沢障害福祉法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や大規模災害への対策強化（災害弱者を作らない取組。）。 ・重症心身障がい、医療ケア児者の日中活動及び居住支援。 ・発達障がい児者支援センターの設置（発達障がい児者の療育及び就労支援。）。
38		藤沢障害福祉法人協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉、介護のマンパワーが不足する中で、ロボットやAI、IoT、データベースなど先端技術の活用から、自宅で暮らしながらも安心して適切な医療やサービスなどが受けられるよう、必要な人に適切な支援を提供できる体制をつくること。 ・老い支度の推進（人生会議、成年後見制度、終活ノートなどの普及活動）を行うこと。
39	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安心な暮らしを支える（藤沢型地域包括ケアシステムの構築。）。 ・地域経済を循環させる（デジタルの推進。インフラの整備と経済の活性化。）。 ・市民自治、地域づくりを進める（チーム藤沢づくりの推進。）。 ・デジタル庁が進めているマイナンバーカードを核とした行政のデジタル化で行政のコスト削減、生産性の向上及び市民性を高めれば容易に実現可能と考える。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
40	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・70歳以上のバス料金助成制度(低料金のバス運行), 無料パスカード(免許証返納促進対策にもなる。) ・国民健康保険料の軽減。 ・買い物, 行政センター等へのミニ路線バス運行。 ・行政のデジタル化の推進。 ・文化施設の充実。美術館, 博物館など。 ・慢性的な交通渋滞の解消とパーキングの整備(休日の辻堂駅周辺と134号線。) ・下水道を整備して海をきれいに。 ・在宅介護のサポート。
41	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤沢市北部地区の区画整理事業を優先して進めてほしい。 ・御所見地区は高齢化率が高く交通手段の不便さもあって「買い物難民」や「通院難民」が増え, 俗に「陸の孤島」と言われている。公共交通手段の充実を図り, 年寄りが住みやすい環境を作ってほしい。
42	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のように道路清掃車を運行してほしい。道路沿いの植え込みが最もゴミが積もる(捨てる。)。植え込みをなくし, 安全柵にしてほしい。集合住宅, 管理の悪い住宅前道路の清掃の義務化。
43	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物難民の解消。 ・子どもの教育には行政の力添えと, 道德教育と教師の教育が必要不可欠だと思う。 ・高齢化が進み, 介護の問題を考えてもらいたいと思う。
44	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・「村岡新駅」(仮称)の必要性を十分検討してもらいたい。 ・学校施設, 各箱物施設等の整備計画を市民に示してもらいたい。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
		(続き)	・整備計画の優先順位を示してもらいたい。
45	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康寿命を延ばすプラステン体操などの普及と継続する活動の支援。 ・高齢者の健康づくりとして、男女とも、人気のあるグラウンドゴルフをフルコースでできるのは長後地区の北面端に1か所のみ。現在整備中の引地川遊水地に運動公園の整備を早くお願いしたい。
46	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂地区は南側が広いので、コミュニティバスの地域巡回をしてほしい。 ・小さな公園にもトイレの設備を充実して安心して住める環境を作してほしい。 ・高齢者でも行政の手続きがスムーズにできるシステムを作り、取り組んでほしい。 ・子どもたちのイベントが少ないので、もっと楽しい日々を送れるよう取り組んでほしい。
47	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯、交通安全にかかわる街路樹は撤去してほしい。子どもや高齢者の事故をなくすためにも安心なまちをつくりたい。 ・高齢者が気楽に立ち寄れる場所が各地区にほしい。 ・健康寿命を延ばすために公園健康体操をやっているが、専門の指導者がほしい。
48	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して住めるまちづくり。 ・移動手段として小型乗り合い自動車の運行(タウンバスの充実)。 ・鵜沼海岸にシャワールーム(有料でも)や洗い場の設置(現状はこうした設備が不足)。
49	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の運転免許書返納を促進するために1万円/年で市内の交通機関を利用できるフリーパス券の発行(高齢者の運転事故防止)。 ・学童保育の補助員として高齢者を学童指導員

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
		(続き)	(資格不要)として採用する。
50	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策を重点に。 ・老人が安心して暮らせる市であるように。
51	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターを村岡地区へ。 ・Wi-Fiフリー化(公共施設, 町内会館。) ・使い勝手の良い藤沢市高齢者いきいき交流助成券(例:交通機関での利用など。)
52	○	藤沢市老人クラブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを守り育む。 ・若者層が安心して暮らせる保育事業の拡充。
53		藤沢市幼稚園協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに結果が出ることには取り組んでほしい。 <p>その優先順位が長期的な視野や展望の中で、直近の課題を位置づけ市民に見えやすい形にしてほしい。</p>
54		藤沢市幼稚園協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園が安定した経営を行っていただけるような支援。 ・子育て世代への支援(母が仕事をしていなくても、子育てが安心してできるような支援, 幼児期に親子の時間がゆっくりと取れるような支援。)
55		藤沢市幼稚園協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・すべては教育から始まる。教育が貧困の負の連鎖をたち切り、未来に向かっていく大きな原動力になっていく。そのためにも幼稚園の経営, 人材育成, 人材確保のためにも、保育園だけでなく、幼稚園にも市のバックアップを切に願う。
56		藤沢市幼稚園協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園との情報共有を図ってほしい。 ・幼稚園経営補助金の増額。 ・幼稚園人材確保の援助。
57		藤沢市幼稚園協会園長会	<ul style="list-style-type: none"> ・交通体系の整備。 ・産業, 観光, 流通の発展による心豊かな社会づくり。
58	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援。取り分け, 保育園の質の向上。 <p>(子どもが育つ1つには, 保育の質の向上が必要。そのためには, 今の保育士不足の状況では叶</p>

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
		(続き)	えることは難しい。他市に比べ、藤沢市の保育園の魅力は低いと思う。)
59	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の充実。 ・道路の整備(自転車, 歩道, 車道の区別。) ・公園の整備(ボール, スケートボード, 散策の区分け。) ・子どもの声は騒音ではないという考えを市長がみせてほしい。
60	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭課の専門員の増員希望。 ・いわゆる支援が必要な子どもと保護者が、「混んでいます」という理由でグループでの活動を断られている。「インクルーシブ藤沢」をめざしましょう。
61	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックが開催されるのであれば、安全安心な実施。 ・地域経済がきちんと回るような経済対策。 ・住みやすく安全なまちづくり。
62	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、辻堂地区では人口が大幅増となっている。同時に、交通渋滞がすさまじい状態となっている。今後必ず来ると言われている大地震に向けても喫緊の課題だと思う。 ・子育て世帯が増えたのと同時に保育所も増えているが、公園の整備も追いついていない。 ・残念ながら、人口増により治安の悪化も懸念している。特に、辻堂駅周辺の夕方から夜中にかけては大騒ぎする人もいる。神台地区に交番が無いのは非常に問題だと思う。
63	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳までの医療費負担軽減。 ・高齢者への金銭的負担の軽減。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
64	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致（マンションを建設するのではなく、企業を誘致し、都市を活性化させる。）。 ・福祉職雇用支援（介護、保育などが人手不足となっている。他市のように市で独自補助を行い、人手不足を解消してほしい。）。
65	○	藤沢市民間保育園園長会(社会福祉法人立の園)	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育所の中身の充実」（豊かな保育環境をつくるには、保育士配置基準の改善が必要。国の基準では不十分であり、最低でも早期に横浜市の基準にすべきと考える。今後、4年間は保育士不足が続くであろうが、豊かさについても検討願いたい。）。
66	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康と文化の森」及び相鉄いずみの線延伸計画の推進に取り組んでほしい。
67	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・公共サービス（保育園、障がい者施設）の民営化。 ・子育て支援の充実。 ・湘南台駅、藤沢駅周辺の開発。
68	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育園法人代表者会として考えることは、まず、保育士をどのように確保すべきか（市単独で行えることは限りがあるが、養成校にも学生が集まりにくいことを考えて、どのようなことができるか教えてほしい。）。
69	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすいまちをアピールするためにも、市が子どもを大切にする姿勢を明確にしていく。
70	○	藤沢市民間保育園設置法人代表者会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への安全対策，経済対策。 ・少子高齢化対策。 ・危機管理対策。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
71	○	法人立保育所の園長会(社会福祉法人立以外の園)	・安全な散歩ルート確保(信号, ガードレール。)
72	○	法人立保育所の園長会(社会福祉法人立以外の園)	・保育園勤務者に対する補助の充実に取り組んでほしい。 ・保育士不足の解消。 ・園児受け入れ人数の調整。
73	○	法人立保育所の園長会(社会福祉法人立以外の園)	・子育て支援の充実(子育てに関しては広く平等に(所得制限なく)支援してもらいたい。共働き世帯も多い中, 何が必要か, 求められているかをしっかりと把握し, 取り組んでもらいたい。)
74	○	小規模保育事業所の園長会	・保育園, 小学校の整備(保育園が増えているが, 保育士が不足。近隣では市の補助金が強力な力となり, 藤沢市では保育士の確保が厳しくなっている。小学校の受け入れが整備されておらず, 学級崩壊や教育の低下を招いている。市のマンパワーの低下の直結を危惧している。)
75	○	小規模保育事業所の園長会	・生活保護の人たちにカウンセリングを受けてほしい。 ・あらゆる方向から精神的なサポートや支援をしてほしい。
76	○	小規模保育事業所の園長会	・認可保育園運営の安定(企業を募り, 保育園ばかりを乱立させ, 「あとは勝手にどうぞ」で, いざ蓋を開けると保育士不足, 3歳児以上の園児の定員割れ等が発生し, 企業の保育園運営が危うくなるという事にならないよう, 行政が保育士確保のための独自の策を考えてもらいたい。)
77	○	小規模保育事業所の園長会	・今は, コロナの影響で経済的に苦しい事業者の救済に取り組んでほしいと思う。
78		藤沢市幼児教育協議会	・SDGs 推進。 ・福祉の充実。 ・幼児教育が格差なく受けられるように。

	12月5日 以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
79		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが貧困に悩まずに生活できるように取り組んでほしい。 ・オンライン学習をしたくても経済的に無理なことのないように支援してほしい。
80		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症における従来の市政運営を改め、オンラインや電子化による政策を重点化。 ・オンライン授業等を重点に考える場合、子どもたちの理解度、教師の力量を研修等で学ぶ機会を与えてほしい。 ・今後の環境問題について、毎年、重点的に取り組んでほしい。
81		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症でダメージを受けた市内産業が存続できるような取組。 ・高齢化にともなってまちがさびれていかないようにする取組。
82		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響下での経済対策の充実。 ・新型コロナウイルス感染症の影響下での医療体制の充実。
83		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症からの脱却（経済、医療、学業。）。
84		藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りや子ども、子育て世代が毎日笑って生活できる環境の充実。 ・公園を増やす。 ・生活が厳しい人が多いので給付金を自治体で渡してほしい。
85	○	藤沢市青少年 指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害対応。 ・インフラ整備。 ・子どもたちにとって安心、安全に遊べる公園等の充実。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
86	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナ下での経済活性化を重点的に取り組んでほしい。 ・行政，学校関連のデジタル化を進めてほしい。
87	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援（貧困，障がい，ひとり親，ダブルケア）の充実。 ・高齢者支援（介護保険，医療費，交通（バス，タクシー）費の無料又は緩和，居場所などの充実。）。
88	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを守り育む環境づくりに重点的に取り組んでほしい。 ・子どもの教育環境の充実，助けを必要とする子ども，保護者への支援。 ・学校と地域団体，地域住民との子どもを取り巻く良好な関係づくり。
89	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の安全のため，新型コロナウイルスへの対応。 ・一般市民が簡便に利用できる行政窓口のデジタル化。
90	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくり。（そのために，女性の視点を取り入れるシステムの構築。）。
91	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の充実。 ・子どもたちの居場所づくり（ボールの使える公園。）。
92	○	藤沢市青少年指導員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所がある藤沢駅周辺が古い時代のままで，今の時代に合っていない。魅力ある藤沢になってほしい（ショッピング，娯楽。）。 ・医療面では，インフルエンザなどの予防接種が足りず，受けられない人が多くいるので，ワクチン類は市民が公平に受けられるようになってほしい。
93		藤沢市青少年育成協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と文化の森地区の土地区画整理に合わせ，相鉄いずみ野線延伸の計画の早期実現の措置。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
94		藤沢市青少年育成協議会	・新型コロナウイルス感染症対策に重点を置いて取り組んで欲しい(事後の対策を含む。)
95		藤沢市青少年育成協議会	・コロナ禍のここ1~2年間、子どもたちに様々な影響を与えると思う。将来のことを思うと、子育て支援の充実、0歳~高校生まで。
96		藤沢市生活環境連絡協議会	・ごみの分別によりごみの減少。 ・資源ごみを各家庭前収集にする(資源ごみの収集場所の確保が難しい。)
97		藤沢市生活環境連絡協議会	・高齢者に対する福祉, 生活支援。 ・市民センターの充実(地域の特性に合わせた業務内容。)
98		藤沢市生活環境連絡協議会	・どんな政策方針でも市民が理解しない, 理解できないと最悪である。いかによりコミュニケーションができるかが解決の道だと思う。理解できたら次は市民が自覚を持った自主活動が必要で, 全ての事業はこのキャッチボールで改善されていくものだと思う。ぜひ表現を変えて市民に解るPR活動をお願いしたい。
99		藤沢市生活環境連絡協議会	・新型コロナウイルス感染症下での経済対策をしてほしい。 ・健康で安心な暮らしを支える。
100		藤沢市生活環境連絡協議会	・豊かな環境をつくる。 ・市民自治, 地域づくりを進める。
101		藤沢市生活環境連絡協議会	・自然災害, 暴風, 集中豪雨が多くなっているの で, 地震は言うに及ばず万全の備えを第一にお願いしたい。 ・人と人との関係を高める施策, そっとしておい てほしいという人の施策。
102		藤沢市生活環境連絡協議会	・藤沢駅付近の再整備を含めて, 藤沢市の顔とし て人が集まり活性化するように。 ・高齢者が生活できるように。

	12月5日以降受付	団体名等	直近4年間に最も重点的に取り組むべきこと (一部要約)
103		藤沢市生活環境連絡協議会	・健康と文化の森地区に鉄道延伸事業の認可。
104		藤沢市生活環境連絡協議会	・ひとり親世帯に対する貧困是正のための公的補助の充実。 ・民生委員の自治会，町内会の推薦制の改正，自選制度創設。 ・自治会，町内会の運営を透明化し，楽しい元気な自治会にする。
105		藤沢市生活環境連絡協議会	・市の税収の減少が認められる場合は，事業の見直しをしてほしい。
106		藤沢市生活環境連絡協議会	・市内の小田急線駅周辺道路は車の渋滞が激しい。交通体系の見直し，道路渋滞の原因を個別に調査し，解消してもらいたい（交通事故防止と省エネのために必要と考える。）。
107	○	小学校校長会 役員会	・新型コロナウイルス感染症影響下での経済対策に優先的に取り組んでほしい。 ・公立学校への十分な人員配置をするとともに，教員の教育力向上研修の充実に取り組んでほしい。
108	○	中学校校長会 役員会	・高齢者が安心して生活できる環境整備。 ・子どもの貧困，ヤングケアラー等の克服に向けた積極的な取組。 ・子育て支援の充実。

ウ 意見交換による意見

	12月5日以降受付	団体名等	意見の概要
1		経済3団体連絡会議	・新型コロナウイルス感染症に触れているが，コロナ終息後を前提としているのか，コロナとの同居が前提なのか。 ・前提を丁寧に説明すべき。

	12月5日 以降受付	団体名等	意見の概要
		(続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定点基準を設定し、現状把握、予想等を繰り返し、施策に反映すべき。 ・ 例えば、野球、音楽や映画も同じで、観ると心が安らぎ豊かになり、人を動かす効果は大きい。人を動かすために何をしたらいいかを示すべき。
2		経済3団体連絡 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人が動かないと経済は動かない。 ・ 新型コロナウイルス感染症の説明がもう少しあった方が良く、市の考えをきちんと示すべき。
3		経済3団体連絡 会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標2「文化・スポーツを盛んにする」の長期課題にはもっと記載すべき。 ・ 基本目標6「地域経済を循環させる」の「2040年の藤沢市の姿」の中で、人の動きに触れた記載がない。
4		藤沢商工会議所 正副会頭会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20年先を見据えて、人口減の問題は重要。高齢者が増えると年金や医療費など様々な問題があるが、4年スパンの重点方針にどう盛り込むのか。 ・ 高齢者が、働ける場所やレクリエーション等の充実した時間を送ることができる場所があるとよい。 ・ 若者の意見や行動力を生かすと言っても、話し合いに参加するのは高齢者ばかりだ。若い人の共感を呼ぶ事例や、スポーツやイベント等のざっくばらんなものも必要ではないか。 ・ 地域経済の循環には商店街が重要。41商店街の長期的な方向性も入れた方がよい。 ・ 村岡新駅は、20年あればどのようなまちができるのか見えてきている。 ・ 藤沢駅周辺は、近隣商業施設があるうちに、てこ入れが必要だ。方向性を出すべき。 ・ 3線乗り入れの優位性を保つためには商業優先

	12月5日 以降受付	団体名等	意見の概要
		(続き)	<p>で。将来的には有効なので、英断をもって藤沢駅周辺の再開発が検討されるよう支援してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江の島の観光客は1,900万人いるが、経済効果を高めるよう、ブランド力をつけてもっとスターにしていくべき。 ・SDGsは幅広の取組で、市のイメージアップにもつながる。一緒に取り組んでいけるとよい。
5		藤沢商工会議所 正副会頭会議	<ul style="list-style-type: none"> ・20年先を見据えた長期ビジョンは、市民アンケートで市民の声を吸収しながら多岐にわたる中で落とし込んでいる。すべての面を網羅するのは大変だが、内容は期待できる。 ・4年間でもよいのでビジョンに見合う定量的な目標を示すべき。例えば、観光客はターゲットをどうするのか、インバウンドなのか。定量的に20年先は何人を目標にするのか。農業の活性化では市全面積のうち、どれ位の面積を農業に割り当ててるのか、生産量は増やしていくのかなど。そういうことが具体的なアクションプランにつながる。 ・人口は何人まで目指すのか。それに見合う財政規模はどうなのか。拡大なのか、縮小・均衡なのか、人口と財政のギャップをどう埋めるのかという指針に付随する財政計画も示すべき。 ・人口流入と合わせて、事業所の増加、企業誘致も大切だ。圏央道開通によるメリットがあるので、定量的に示すべき。 ・「郷土愛あふれる藤沢～松風に人の和うるわし湘南の元気都市～」は、3つのコンセプトとギャップがある。 ・最先端、バランス型、歴史文化など、市としての軸足をどこに置くのかを確認すべき。

	12月5日 以降受付	団体名等	意見の概要
6		藤沢商工会議所 正副会頭会議	<ul style="list-style-type: none"> ・人の雇用を，となると研究開発より工業，モノづくりではないか。2040年までではなく，4～5年の方向性を示してほしい。 ・IT, IoT, AI, オンライン学習等の記載があるが，市全体で具体的なビジョンはあるのか。 ・民間からの様々な提言ともリンクさせ，まちづくりに生かしてほしい。 ・基本目標2「生涯スポーツで健康に」という考え方は理解できるが，スポーツを資源とした経済活性化の視点も入れてほしい。
7		藤沢商工会議所 正副会頭会議	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進会議で，施設が障がい者にやさしくないとの意見がある。障がい者がスポーツしやすいよう環境整備をしてもらいたい。
8	○	各地区の自治町 内会連合会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策について。避難所として市とマンションと提携していたが，断られるケースが増えている。市として改めて確認をしてもらい，受け入れてもらえるような方策を考えてもらいたい。
9	○	各地区の自治町 内会連合会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート会議をやるのもいいが，パソコン操作が簡単にできるようにしてもらいたい。

※意見交換でいただいたご意見は、「20年後の姿」に集計しています。

以上

(仮称)藤沢市市政運営の総合指針2024 ～2040年に向けた持続可能なまちづくりへの転換～

(案)

<令和3年度～令和6年度>

藤 沢 市

(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2024 構成
～2040年に向けた持続可能なまちづくりへの転換～

はじめに

- 1 藤沢市の現状と見通し
- 2 藤沢市の特性

【これまでの市政運営等を踏まえた、本市の現状と見通し、特性を確認】

第1章 基本方針

- 1 策定の背景と意義
- 2 構成と期間
- 3 長期的な視点
 - (1) 長期的な視点の体系
 - (2) めざす都市像
 - (3) 3つのまちづくりコンセプト
 - (4) 8つの基本目標

【藤沢市の現状と見通し、特性を踏まえて、長期的な視点として、めざす都市の姿、分野ごとの基本的方向性を明示】

第2章 重点方針

- 1 取組の考え方
- 2 5つのまちづくりテーマと17の重点施策
- 3 重点施策実現に向けた財政見通し
- 4 評価
- 5 重点施策の実現に向けた重点事業

【長期的な視点を踏まえた重要性、緊急性の高い課題に対して、重点的に取り組む施策等を展開】

別冊 事業集

- 1 重点事業
- 2 地域づくり

別冊 資料集

- 1 藤沢市を取り巻く社会情勢
- 2 基本方針・重点方針等に関する現状
- 3 個別計画一覧

目 次

はじめに	1
1 藤沢市の現状と見通し	1
(1) 人口動態	1
(2) 財政状況	3
(3) 土地利用	5
2 藤沢市の特性	6
(1) 自然環境・歴史・文化・人材	6
(2) 都市としての性格	6
(3) 市民自治	6
第1章 基本方針	7
1 策定の背景と意義	7
(1) 自治体総合計画の沿革	7
(2) 総合計画に替わる新たな仕組みとしての「市政運営の総合指針」	8
(3) 市政運営の総合指針2020改定にあたって	8
2 構成と期間	9
(1) 構成	9
(2) 期間	10
3 長期的な視点	10
(1) 長期的な視点の体系	10
(2) めざす都市像	11
(3) 3つのまちづくりコンセプト	11
(4) 8つの基本目標	15
第2章 重点方針	31
1 取組の考え方	31
(1) マルチパートナーシップの推進	31
(2) 「藤沢らしさ」を大切に、「藤沢にしかないもの」を生かす	31
(3) 横断的連携	32
2 5つのまちづくりテーマと17の重点施策	32
まちづくりテーマ 1 「安全で安心な暮らしを築く」	33
まちづくりテーマ 2 「健康で豊かな長寿社会をつくる」	35
まちづくりテーマ 3 「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」	37
まちづくりテーマ 4 「都市の機能と活力を高める」	39
まちづくりテーマ 5 「未来を見据えてみんなではじめる」	41
3 重点施策実現に向けた財政見通し	44
4 評価	44
5 重点施策の実現に向けた重点事業	45

はじめに

市政運営にあたっては、将来に向けての課題や見通しを踏まえながら進めていくことが重要です。そこで、藤沢市の現状と見通し及び特性を示します。

1 藤沢市の現状と見通し

(1) 人口動態

2016年（平成28年）10月に発表された「平成27年国勢調査人口等基本集計結果」によると、日本の総人口は1億2,709万人で、1920年（大正9年）の調査開始以来、初めての減少となりました。

国立社会保障・人口問題研究所が2017年（平成29年）4月に公表した「日本の将来推計人口」においては、日本の総人口は減少傾向が続き、2040年（令和22年）には1億1,092万人、2050年（令和32年）には1億192万人になるものと推計されています。

2015年（平成27年）の国勢調査をもとに行った「藤沢市将来人口推計」においては、藤沢市の人口は2030年（令和12年）に約44万4千人でピークを迎え、その後ゆるやかに減少に転じますが、2040年（令和22年）においても2020年（令和2年）の人口をやや上回る見込みです。

人口構造の変化については、2020年（令和2年）から、団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となる2040年（令和22年）までの20年間で、高齢者人口は約38%、約4万1千人増加する見込みです。一方で、生産年齢人口は約10%、約2万8千人減少することが見込まれており、このままでは担い手不足の深刻化が避けられない状況にあります。本市が直面する最大の課題である人口構造の変化への対応力が問われる状況となっています。

また、世帯数は、高齢者や非婚者をはじめとする単身世帯化がさらに進むことにより、人口の増減に関わらず増加を続け、2040年（令和22年）に約19万9千世帯でピークとなる見込みです。

本市が様々な施策を展開する上で、こうした今後の人口構造の変化や世帯構成の変化に的確に対応する必要があります。若い世代、子育て世代に、住みたい、住み続けたいと思っていただけることが重要となります。

また、都市の活力を維持するという観点からも人口動態は重要であり、すでに

人口減少が進んでいる地方都市では、公共交通の衰退や、医療機関、店舗などの撤退などによりさらなる人口減少を招く悪循環が生じており、人口減少局面に入ってから有効な対策を講じることは大変難しいと考えられます。本市でも、人口が減少する前に総合的かつ有効な施策を進め、人口のピークとなる時期をできる限り遅らせ、ピーク時の人口も予測を上回ることができるよう取り組むことが重要となります。

図1-1 藤沢市の将来人口推計（年齢3区分別）

(単位：人)

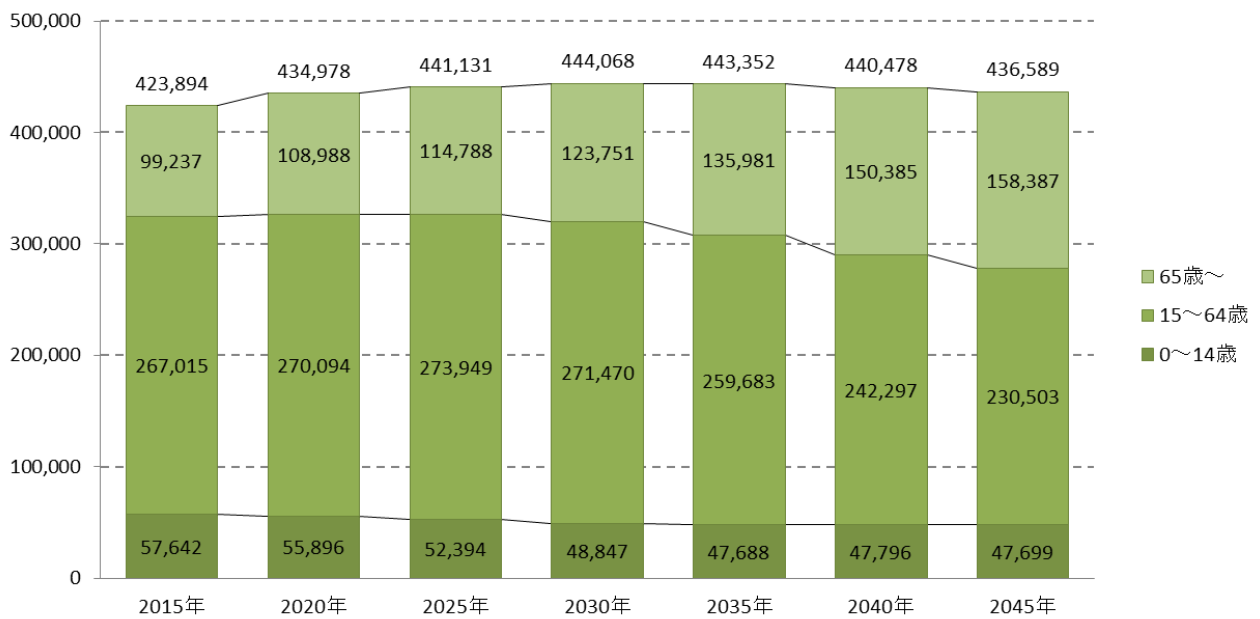
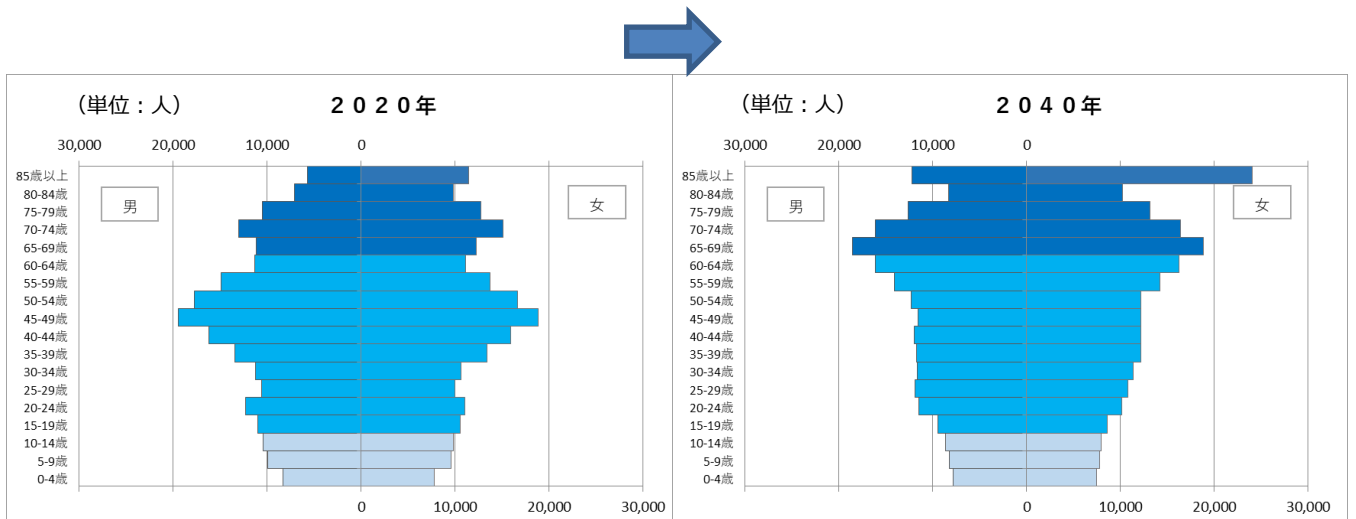


図1-2 藤沢市の将来人口推計（2020年と2040年の人口構造）



② 財政状況

藤沢市の財政は、国が定める健全化判断比率においては、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれも類似都市平均、全国都市平均からみても良好な状態にあり、現在は十分な健全性を保っています。

しかしながら、歳入の根幹をなす市税収入について、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度には大幅な減少が見込まれており、その後も複数年にわたり不確実性の高い大変厳しい状況が予想されます。

本市の長期的な財政見通しについては、従来から3つの大きな課題があります。1つ目は、社会保障関係経費の増大です。高齢者が増えることで増加する経費だけではなく、子育て支援や障がい者福祉の分野でも経費が増大しています。児童福祉、障がい者福祉、生活保護などの扶助費は、平成21年度には212億円であったものが、令和元年度には418億円と、10年間で約2倍になっています。歳出全体に占める割合も、平成21年度に16.7%であったものが、令和元年度では約1.7倍となる27.5%を占めるまでになっており、今後も増加が見込まれます。2つ目は、公共施設の維持管理・再整備に係る経費の増大です。高度経済成長期につくられた施設の多くが更新の時期を迎え、長期的に多額の経費を要するという課題です。3つ目は、税収の大幅な伸びが見込めないという課題です。都市と地方との財政力における偏在是正措置としての国の税制改正や今後の生産年齢人口の減少などにより、本市の税収は大幅な増加が見込めない状況にあります。

こうした大変厳しい財政状況の中で、未来に向けて必要な事業を進めるためには、常に長期的・全体的な視点を持ちつつ、数年先の収支見通しを踏まえた計画的な財政運営を進める必要があります。併せて、優先的に行うべき事業の見極めや、既存事業の抜本的な見直しが必要となることから、今後は、財政状況と長期ビジョンの共有を含め、市民や関係団体への説明と対話を一層進めていく必要があります。

図2 藤沢市の歳入決算の推移

(単位：億円)

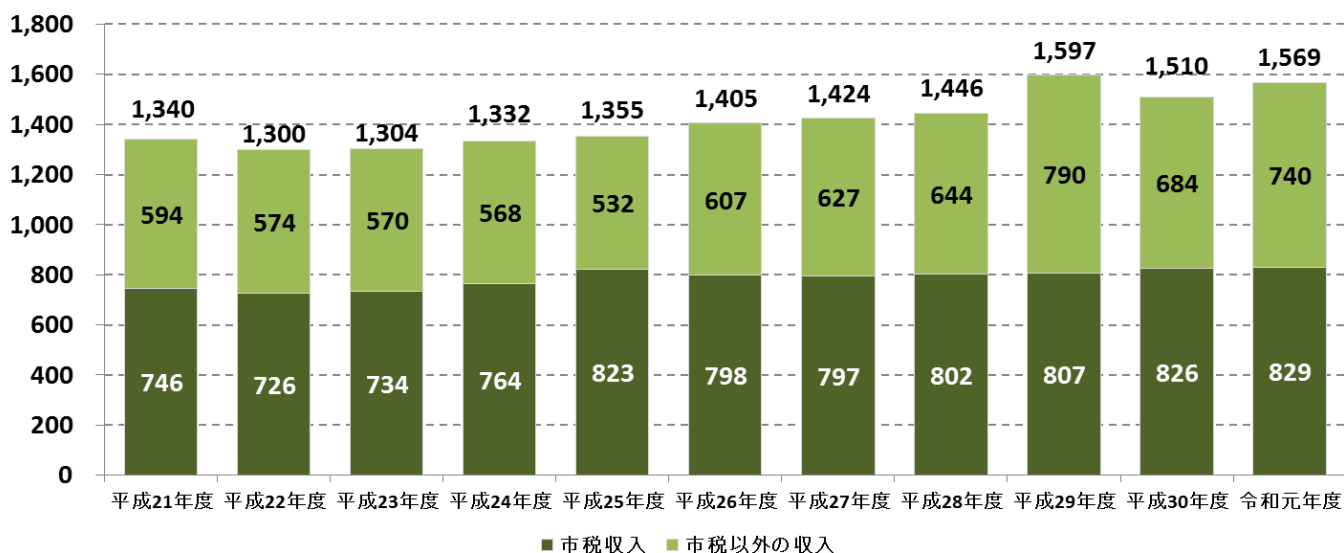
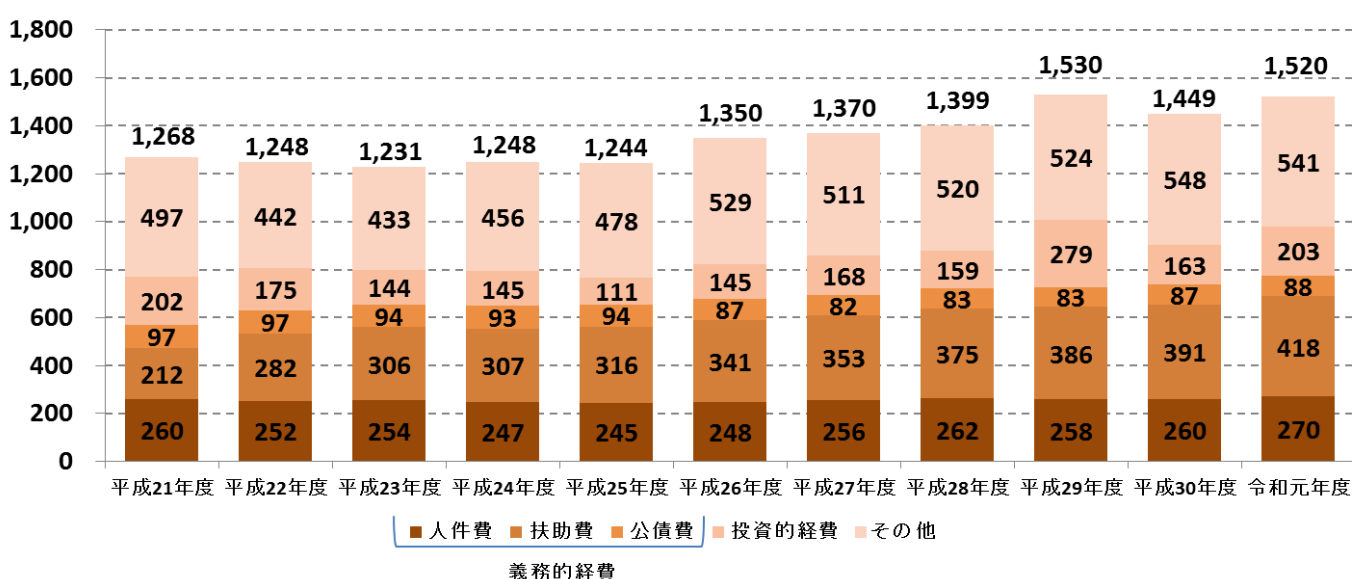


図3 藤沢市の歳出決算の推移

(単位：億円)



③ 土地利用

藤沢市都市マスタープラン[※]（2018年（平成30年）3月部分改定）において、「藤沢駅周辺」「辻堂駅周辺」「湘南台駅周辺」「健康と文化の森」「片瀬・江の島」「（仮称）村岡新駅周辺」の6つを都市拠点と位置づける中で、鉄道と道路により、拠点間の連結と藤沢市の骨格となる東西、南北方向の交通軸を形成し、「海」「河川」「谷戸」「斜面緑地」「農地」等の自然空間を資源として機能させながら、土地利用を進めてきました。また、都市的な土地利用においては、産業、住居、都市基盤施設の調和が引き続き求められるとともに、自然的な土地利用においては、自然空間の保全、活用と緑地空間のネットワーク化が必要となっています。

今後も将来にわたって都市の活力を維持するためには、6つの都市拠点それぞれの特性を生かし、都市的土地利用と自然的土地利用のバランスを保ちながら、環境負荷の低減や移動の円滑化、ユニバーサルデザイン、景観等に配慮し、公共施設等の適切な維持管理と更新を進めつつ、大規模災害や少子超高齢社会に対応するコンパクトで持続可能なまちづくりを進める必要があります。

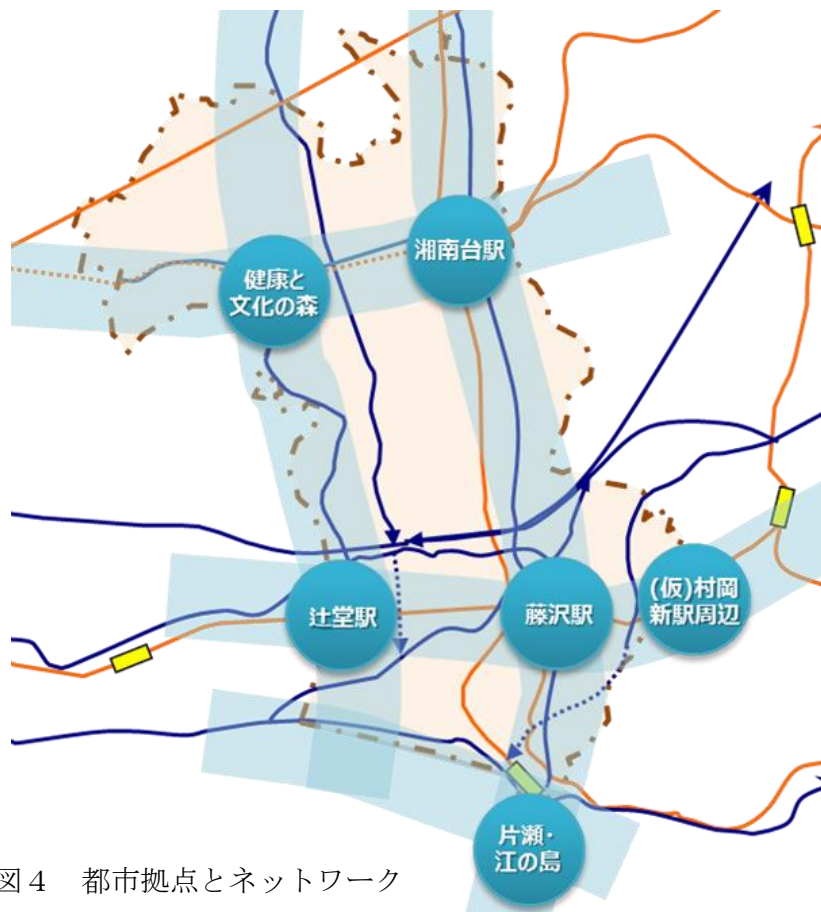


図4 都市拠点とネットワーク

[※] 都市マスタープラン 市町村における都市計画行政の基本となるもので、都市計画、都市づくりに関する基本的な方針として策定される計画をいいます。

2 藤沢市の特性

(1) 自然環境・歴史・文化・人材

藤沢市は、南は美しい湘南海岸に面し、北は相模野台地の緩やかな丘陵が続く、気候温暖な住みやすい都市です。中世には、遊行寺*開山の地として、江戸時代には、東海道五十三次の6番目の宿場町としてにぎわいを見せ、浮世絵にも多く描かれた江の島は、風光明媚な景勝地として栄えました。明治、大正時代には、鵜沼が別荘地となり、多くの文人、財界人を集めるなど、歴史と文化の薫る都市としての一面も持っています。このように藤沢市は、人をひきつけ、多くの偉大な先人たちを輩出するとともに、現在も多彩な人材が藤沢市に関わっており、あたたかさ、やさしさ、熱意を持った多くの市民が藤沢市を支えています。

(2) 都市としての性格

藤沢市は、首都圏に位置し、交通の利便性等を背景に、住宅都市、商・工業都市、農水産業都市の性格をあわせ持つ、多彩で多様な都市です。工業では研究開発型施設の進出、商業では大型ショッピングモールの開業、農業では地産地消の推進等、活力ある都市の顔をみせています。また、本市は日本有数の海水浴場を有し、国内外から多くの観光客が訪れる観光都市でもあり、さらに4つの大学のある学園都市としての性格も加わり、バランスのとれた都市機能を有する湘南の中心的都市として発展を続けています。

(3) 市民自治

藤沢市では、1981年(昭和56年)に始まった「地区市民集会」から「くらし・まちづくり会議」、「地域経営会議」、そして「郷土づくり推進会議」へと、約40年にわたって市民の市政参画、市民自治の取組が進められ、こうした取組の経験も踏まえ、様々な地域活動が展開されています。

また、ボランティア、NPO等の活動も盛んであり、歴史的な街なみや景観の保全・形成、地域の特色ある子育て支援や生涯学習の拠点づくり等、多くの市民活動が進められています。

* 遊行寺 正式には藤澤山無量光院清浄光寺(時宗総本山清浄光寺)といえます。

第1章 基本方針

1 策定の背景と意義

(1) 自治体総合計画の沿革

戦後の地方自治の発展に伴い、単に国の政策を執行するだけではなく、自治体としての政策を形成する必要性が高まり、高度経済成長の時代が進むにつれて、さらに各自治体は個別の施策・事業ごとに判断するだけでなく、将来見通しを踏まえて総合的に政策を提示すべきと考えられるようになりました。1969年(昭和44年)に、市町村の首長は議会の議決を経て、基本構想^{*}を策定することが地方自治法により義務づけられ、その後、旧自治省が設置した研究会が提唱した「基本構想・基本計画・実施計画」という三層構造の計画、いわゆる「総合計画」を策定し行政運営を行うことが自治体にとっての事実上の標準となりました。本市では藤沢市総合計画を改正地方自治法の施行に合わせ、昭和43年度に策定し、昭和44年度から施行しました。

一般的に、基本構想は10年から20年程度の大まかな方針を示す長期戦略であるため、これを具体化するために、基本計画は5年から10年程度の施策レベルの中期計画、実施計画は3年から5年程度の事業レベルの短期計画として策定されました。

しかし、高度成長の時代が終わり、人口減少と急速な少子高齢化の進行という急激な環境変化の中で、右肩上がりの成長を前提にした総合計画のあり方が問題視されるようになりました。歳入の伸びが歳出の伸びを下回る右肩下がり時代(人口や財源は増えないが少子高齢化や公共施設等の老朽化などによる行政需要は増加する時代)にあっては総合計画から多年度財政計画としての性格が薄れるようになり、総合計画は財政フレームのない中長期的な方向性と政策・事業の登録簿と言われ、策定の事務負担に比して、策定の効果が感じにくくなっていきました。そして、2011年(平成23年)の地方自治法の改正により、市町村に対する基本構想の策定義務が撤廃され、右肩下がり時代の中で、各自治体の判断による「総合計画」の新たな位置づけが求められるようになりました。

^{*} 基本構想 地方自治法の旧第2条第4項では、「市町村は、その事務を処理するにあたっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」と規定していました。

② 総合計画に替わる新たな仕組みとしての「市政運営の総合指針」

本市でも、総合計画は、総合的かつ計画的に行政運営を進め、より効果的に事業を展開することを目的として策定され、長きにわたり改定を続けてきましたが、策定に多くの時間と労力、経費がかかることや市の事業を総花的に位置づけるため、重要、緊急な取組が見えづらくなること、策定が進む分野別の個別計画との重複が増えたこと、多くの事業を位置づけた長期間の計画であったため、実施にあたって財政上の担保ができないことなど、多くの課題がありました。

地方自治法が「基本構想」の策定義務を撤廃したことを受け、総合計画のあり方、仕組み自体を見直し、その結果、概ね20年先を見据えた基本方針と、市民ニーズに基づいた課題の緊急性、重要性を踏まえ、直近の4年間に重点的かつ確実に実施する施策を位置づけた重点方針による「藤沢市市政運営の総合指針2016」を、総合計画に替わる仕組みとして、平成25年度に策定し、平成28年度に「藤沢市市政運営の総合指針2020」として改定しました。なお、「市政運営の総合指針」は、社会経済環境の変化の速さに対応できるよう、市長任期を踏まえて4年に一度、全体を見直すことができる仕組みとしています。

③ 市政運営の総合指針2020改定にあたって

本市でも、毎年度の予算編成におけるやりくりによって、単年度ごとに収入見通しと支出見通しの乖離を埋め、収支均衡を図らなければならない状況にあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、財政状況の不透明性が高まっています。厳しい財政見通しの中で、将来に向けて新規事業や拡充事業に取り組もうとする「市政運営の総合指針」と、行政の効率化、既存事業の見直し等を進める「行財政改革」が連携することは、ますます重要となっています。「市政運営の総合指針」が示す基本方針や重点方針の方向性は、予算の配分や職員の配置を決める上でも判断基準になります。

新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、人々の働き方、学び方、暮らし方などのスタンダードが変化し、「ウィズコロナ・アフターコロナ時代」の新しい生活様式が形成されつつあります。総合指針の改定にあたって、次の4年間は、本市にとっても、危機を克服し、新しい未来を創造する重要な期間となります。新型コロナウイルス感染症対策を最優先としつつも、2025年問題*をはじめと

* 2025年問題 団塊の世代が2025年(令和7年)頃までに75歳以上(後期高齢者)に達することで、介護、医療費等の社会保障関係費の急増をはじめ様々な影響が懸念されることをいいます。

する喫緊の課題に着実に対応し、さらに、20年後を見据えた持続可能なまちづくりへの転換を進める最初の4年間と捉え、取組を加速する必要があります。

こうした状況を踏まえ、「藤沢市市政運営の総合指針2020」の期間の終了に伴い、引き続き、共有すべき理念の浸透や直近4年間の重点施策の明確化を重視しつつ、これまでの取組や評価、意見等を踏まえて、目指すべきまちの姿を明確化するためにSDGs（持続可能な開発目標）^{*}の視点も取り入れ、「藤沢市市政運営の総合指針2020」を（仮称）「藤沢市市政運営の総合指針2024」（2040年に向けた持続可能なまちづくりへの転換）として改定します。

2 構成と期間

この指針は、概ね20年先を見据えつつ喫緊の課題に対応した分かりやすいものとするため、本編と別冊に区分します。また、4年ごとに全体を見直し、改定することとします。

(1) 構成

【本編】

指針の本編は、第1章「基本方針」と第2章「重点方針」で構成します。

第1章「基本方針」では、「策定の背景と意義」、「構成と期間」、第2章で示す「重点方針」の前提となる「長期的な視点」としての「めざす都市像」、「3つのまちづくりコンセプト」、「8つの基本目標」を明らかにします。

第2章「重点方針」では、「長期的な視点」を踏まえた上で、喫緊に取り組む重点課題を抽出し、その課題に対応する「まちづくりテーマ」、「重点施策」等を示します。

【別冊】

別冊は、重点施策の実現に向けた「重点事業」等を「事業集」として、指針の背景となるデータや見直し時に活用する指標等を「資料集」として、それぞれまとめます。

^{*} SDGs（持続可能な開発目標） 2015年（平成27年）に国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標で、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための2030年（令和12年）を年限とする17のゴールが掲げられています。

② 期間

この指針の期間は、令和3年度から令和6年度までとします。

3 長期的な視点

藤沢市の現状と見通し、特性等を踏まえ、概ね20年先を見据えた「長期的な視点」として、「藤沢市市政運営の総合指針2016」及び「藤沢市市政運営の総合指針2020」における「めざす都市像」と「基本目標」をベースに見直します。特に、SDGsの視点を取り入れ、次のとおり、8つの基本目標に共通する考え方として「3つのまちづくりコンセプト」を追加して、目指すべきまちの姿の明確化を図ります。

(1) 長期的な視点の体系

【めざす都市像（基本理念）】

郷土愛あふれる藤沢
～松風に人の和うるわし 湘南の元気都市～

【3つのまちづくりコンセプト】

- 1 藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち（サステナブル藤沢）
- 2 共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢）
- 3 最先端テクノロジーを活用した安全安心で暮らしやすいまち（スマート藤沢）

【8つの基本目標】

- 1 【安全な暮らしを守る】
- 2 【文化・スポーツを盛んにする】
- 3 【自然を守り豊かな環境をつくる】
- 4 【子どもたちを守り育む】
- 5 【健康で安心な暮らしを支える】
- 6 【地域経済を循環させる】
- 7 【都市基盤を充実する】
- 8 【市民自治・地域づくりを進める】

② めざす都市像

めざす都市像（基本理念）

藤沢市には、自然、歴史、産業、市民文化など様々な面で強みがあり、市民一人ひとりが、自分の個性にあったライフスタイルや都市の魅力を見つけられる良さがあります。これらは、経済情勢や社会の変化にも柔軟に対応できるということにもつながっています。こうした藤沢市の長を生かしながら、市が将来に向け描く都市の姿を「めざす都市像」として位置づけます。

めざす都市像

郷土愛あふれる藤沢

～松風に人の和うるわし 湘南の元気都市～

藤沢市で生まれ育った人も、藤沢市に移り住んだ人も、藤沢市を郷土として心から愛し、誇りをもって生き生きと暮らすことができる都市を目指します。これからの厳しい時代を迎えても、藤沢市が、多様な主体の協働により、みんなの課題をみんなの力で協力して解決できるまちとなるよう、一人でも多くの人に地域に関わっていただき、藤沢市の強みであるシビックプライド（郷土への愛着と誇り）をさらに高め、そこから生まれる大きな市民力、地域力を生かしていきます。

そして、松風と藤の香りに包まれた都市、歴史と文化の薫る都市、産業の栄える都市、安全で暮らしやすい都市…こうした魅力ある都市の姿を理想として、先人たちが積み上げてきた歴史と文化、自然の豊かさ・美しさ、そして、うるわしい人の和など、藤沢市歌に込められた「藤沢らしさ」を大切にす市政を進めます。

さらに、郷土愛の基となる、こうした「藤沢らしさ」を、時代の変化に応じて発展させ、未来に引き継いでいけるよう、SDGsという新たな視点を取り入れ、元気を生み出し続ける支えあう都市を目指します。

③ 3つのまちづくりコンセプト

「めざす都市像」の実現に向けて、目指すべきまちの姿の明確化を図るため、SDGsの視点を取り入れ、3つの「まちづくりコンセプト」を位置づけます。

「まちづくりコンセプト」には、郷土愛の基となる「藤沢らしさ」を未来につながる持続可能な発展を目指す考え方を位置づけるとともに、支えあう「人の和」の未来の姿として、誰一人取り残さないまちという高い理想を掲げ、その考え方を位置づけます。さらに、これら2つの目指すべきまちの姿を実現するため、テクノロジーの力を上手に活用し様々な課題を解決するまちを目指す考え方を位置づけます。

まちづくりコンセプト 1

藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち（サステナブル藤沢）

「藤沢らしさを未来につなぐ持続可能な元気なまち」（サステナブル藤沢）を、まちづくりコンセプトとして位置づけ、次のとおり取り組みます。

- SDGsの視点から、現在の市民のニーズを満たすだけでなく、将来世代のニーズも満たすものであるかどうか、未来の人たちに誇れる取組であるかどうか、市のすべての取組において問い直します。
- 今後の「人口構造の変化」や「財政負担の増加」、「公共施設等の老朽化」や、「税収の増加が見込めないこと」など、大変厳しい状況が見込まれる中、長期的視点から見て持続可能性に課題のある事業は、大胆に見直しを進めます。
- 人口のピークとなる時期をできる限り遅らせ、ピーク時の人口も予測を上回るように、交通利便性の高さや買い物環境、医療・福祉など、本市の総合的な暮らしやすさを高めるための取組を積み重ね、さらに、住んでみたい、住み続けたいと思える藤沢を築きます。
- 「湘南の海」、「緑の豊かさ」、「地元で採れた新鮮な食べ物」といった自然を身近に感じられる郊外都市としての強みを生かし、子育てしやすいまち・教育環境のよいまちとしてのブランド力を高め、多くの人に愛され住んでいただける藤沢であり続けられるよう取り組みます。



その取組は、サステナブル（持続可能な取組）になっていますか？

まちづくりコンセプト2

共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち（インクルーシブ藤沢）

「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち」（インクルーシブ藤沢）を、まちづくりコンセプトとして位置づけ、次のとおり取り組みます。

- 障がいのある人や、高齢者、子ども、外国につながりのある人、セクシュアル・マイノリティの人など、様々な生活上の困難を抱える人が、社会的に孤立したり、さらに困難な状況に陥り、悪循環に苦しむことのないよう、誰一人取り残さないという思いで、まちづくりを進めます。
- 多様な市民がまちづくりに関わる機会や手法を積極的に取り入れるとともに、当事者の声を大切にされた政策形成が図られるまちとなるよう取り組みます。
- 多様な生き方、考え方を認め合うまちであることを大切にして、様々な文化が共生する、多彩な魅力とみんなの活力があふれる藤沢を築きます。
- 社会状況や価値観の変化に伴い、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた都市空間、安全で安心して暮らせる地域環境が求められていることを踏まえ、誰もが住みやすいまちづくりを進めます。
- 変化の激しい時代に対応していくためには、これまでのような「同質性を前提としたチームワーク」から、「多様性を認め合うチームワーク」への転換を進める必要があります。若者の意見や行動力をまちづくりに生かすなど、性別、年齢、職歴などに関わらず、多様なメンバーが多彩な能力を持ち寄って力を発揮できるよう、ダイバーシティ※を推進します。



その取組は、インクルーシブ（誰も排除しない取組）になっていますか？

※ダイバーシティ 直訳は「多様性」ですが、ここでは多様な人材を積極的に活用しようという考え方を意味しています。民間企業等がダイバーシティを重視する背景には、有能な人材の発掘、斬新なアイデアの喚起、社会の多様なニーズへの対応といった狙いがあるといわれています。

まちづくりコンセプト3

最先端テクノロジーを活用した安全安心で暮らしやすいまち(スマート藤沢)

「最先端テクノロジーを活用した安全安心で暮らしやすいまち」(スマート藤沢)を、まちづくりコンセプトとして位置づけ、次のとおり取り組みます。

- Society 5.0^{*}社会の到来を踏まえ、自然や文化を大切にしつつ、少子高齢化や担い手不足などに伴う様々な社会課題の解決のために、IoT (モノのインターネット)、ビッグデータ、AI (人工知能)、ロボットなど最先端テクノロジーを積極的に活用し、安全安心で暮らしやすいまちとなるよう取り組みます。
- 市民自らがテクノロジーを上手に活用することができ、より豊かな働き方、学び方、暮らし方を実現できる、市民中心のスマートシティの実現に取り組みます。
- 「ウィズコロナ・アフターコロナ」時代の新しい生活様式への対応を図るため、積極的にデジタル化を推進し、「藤沢らしさ」を未来につなげる持続可能なまちづくりと誰一人取り残さないまちづくりの実現につなげます。
- ICTをはじめとしたテクノロジーを行政にも積極的に活用し、オンライン申請の充実などによる市民の利便性向上を図るとともに、AI・RPA (ロボットによる業務自動化)などの活用による業務効率化やコスト削減、市民サービスのあり方の見直しを進めます。また、市民参加の促進や地域コミュニティの活性化を進めるデジタル市役所を実現します。
- デジタルトランスフォーメーション(DX)^{*}の推進にあたっては、より高度なデータ社会の到来を見据え、専門的知見を有する大学や民間企業、先進自治体との連携を積極的に進めます。



その取組は、スマート(テクノロジーを有効に活用した取組)になっていますか？

^{*} Society 5.0 サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたもの。

^{*} デジタルトランスフォーメーション(DX) 「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念で、2004年(平成16年)にスウェーデンのウメオ大学エリック・ストルターマン教授が提唱し世界的に拡散したもの。

(4) 8つの基本目標

「めざす都市像」を実現するために、「3つのまちづくりコンセプト」の考え方を踏まえ、8つの基本目標を位置づけます。この基本目標に沿った取組が相互に連携することにより、バランスのとれた都市の姿を維持し、発展することを目指します。基本目標は、藤沢市の現状と見通し、特性等を踏まえた上で、市の施策、事業を進めるにあたり、基本となる方向性を示すものとしします。

基本目標1 安全な暮らしを守る

【長期課題】

- 市民生活に甚大な被害を及ぼした過去の大規模災害（地震・津波など）を教訓に、被害を最小限に抑え速やかに回復できる防災・減災対策に取り組むとともに、地域における防災力の強化・充実を図り、災害に強くてしなやかなまちを構築する必要があります。
- 気候危機への対策が世界的な重要課題となる中、突発的かつ局地的な豪雨や大型台風等、激甚化・頻発化する自然災害（土砂災害、洪水、内水氾濫など）への対策の強化（適応策）を図る必要があります。
- 「逃げ遅れゼロのまち」の実現に向けて、自主防災組織の担い手不足、地域によって異なる災害リスクへの理解の促進、子どもの頃からの地域防災への関わり、増加する避難行動要支援者への対応など、様々な課題に対応し、地域と共にソフト面の対策を強化することも重要となります。
- 新たな感染症の脅威に対しては、新型コロナウイルス感染症への対策の経験から、健康危機管理対策の充実と、対応力の強化を図る必要があります。
- 手口が巧妙化する特殊詐欺などへの防犯対策の強化や、悲惨な交通事故を防ぐためにハード面とソフト面の双方から交通安全対策の強化を図る必要があります。
- データ社会における個人情報への取扱いなど、社会の変化に伴い生じる、市民生活における様々な不安要因を軽減する取組を進める必要があります。

2040年の藤沢市の姿として、

テクノロジーの力も活用し、地震・津波災害、激甚化する風水害、都市災害への総合的な取組（防災・減災・危機管理・復興）の強化や新型コロナウイルスへの対策を進めるとともに、超高齢社会の進展などの社会的変化に対応した消防・救急体制の充実を図り、さらに、地域と連携した防犯対策や交通安全対策等を一層推進することにより、市民の生命と財産を守り、誰もが安全で安心な暮らしを実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標 2 文化・スポーツを盛んにする

【長期課題】

- 人生100年時代においては、市民一人ひとりが生涯にわたって学びを重ねることで、時代の変化に応じた知識・技能を獲得し、新たな価値を生み出せるよう、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を念頭に置いた生涯学習活動を推進する必要があります。
- 一人ひとりがライフサイクル、ライフスタイルにあわせて利用できる図書館サービスの提供を行うため、ICT環境の整備、施設の老朽化や超高齢社会、人口減少などの社会的課題を踏まえた4市民図書館11市民図書室のあり方を検討し、時代の変化に対応する必要があります。
- 藤沢市には、旧東海道の宿場町、江の島参詣の地としての歴史があり、また、史跡名勝や歴史的建造物、祭り等多くの有形・無形の文化財があります。少子高齢化や地域コミュニティの希薄化等により、これらの歴史や文化、景観の継承が難しくなっている中で、藤沢市の財産として次代に、しっかりと保全・継承するとともに、新たな活用により地域の活性化につなげる必要があります。
- 市民が持つ高い文化水準を背景に活発に行われている市民自らが主体となった文化芸術活動を維持・向上させるためには、その活動の拠点を整備し、幅広い世代の市民の興味・関心を高め、様々な文化活動を支援する取組を行っていく必要があります。
- 現在の文化芸術活動を発展・向上・融合させることで新たな「ふじさわ文化」を創造し、本市の魅力を向上させるには、本市の未来を担う活力に満ちた若者たちの文化芸術活動を支援する環境を整えていく必要があります。
- 東京2020大会を契機として、健康寿命日本一や共生社会の実現に向けて、子ども、高齢者、障がいのある人など、誰もが生涯にわたって多様なスポーツ活動に親しめるよう、「する」・「観る」・「支える」スポーツを推進していくことが必要であり、あわせて、まちの賑わいの創出、経済の活性化、地域交流の促進につなげるため、ソフトとハードの両面において、スポーツ環境を充実させる必要があります。

2040年の藤沢市の姿として、

歴史的、文化的な資源、景観を保全・継承・活用するとともに、市民による文化芸術活動や生涯学習・スポーツ活動等をさらに盛んにすることで、市民一人ひとりが日頃から文化・スポーツを楽しみ、歴史や文化を大切にし、郷土への誇りや愛着を実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる

【長期課題】

- 地球温暖化に起因する気候危機への対策のため、二酸化炭素排出実質ゼロに向けて再生可能エネルギーやエネルギーの地産地消など、環境に優しいエネルギーの活用を推進し、地球温暖化の進行を緩和する取組（緩和策）を、災害に強いまちづくりなど（適応策）と両輪で進めていく必要があります。
- 私たちとともに生き、恩恵を与えてくれる美しい海や川、谷戸などの豊かな自然環境は藤沢市の貴重な財産です。かけがえのない自然環境を次世代に引き継ぐため、未来を担う子どもたちを中心とした環境教育の推進を図り、市民との協働による環境美化・環境保全活動を継続・発展させていく必要があります。
- 市内各地で行われるクリーン活動・美化啓発の充実、市民・団体等との連携・協力による清掃活動、ごみ減量対策、不法投棄対策を推進し、誰もが心地よく過ごすことができる、地域から広がるおもてなしの心を持った環境都市を実現していく必要があります。
- 海洋ごみの約8割は、まちから河川を通じて流れてくるといわれており、海岸ごみにおけるプラスチックごみの割合が増加していることから、海洋プラスチックゼロエミッション（プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないこと）を目指して、まちや河川、海岸の美化活動を推進し、陸域から海への流出を抑制することにより、プラスチックごみがない生態系に優しい藤沢の実現に取り組む必要があります。
- 3R^{*}+Renewable（リニューアブル：再生可能な資源利用）の取組を浸透させることにより、廃棄物の減量・資源化のさらなる促進と最終処分場の延命を図るとともに、超高齢社会における市民のごみや資源を排出する際の負担の軽減に取り組む必要があります。
- 水田や畑などの農地は、新鮮な農作物を供給し、藤沢の「食」を支えるとともに、潤いとやすらぎを与える田園景観や生物多様性を保全する機能、防災・減災の機能

^{*}3R Reduce（リデュース：発生抑制）、Reuse（リユース：再利用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字のRをとったもの。まず、ごみの発生量を減らす（Reduce）ことから始めて、次に使えるものは何回も繰り返し使う（Reuse）、そして使えなくなったら原材料として再生利用（Recycle）するという考え方をいいます。

など、多面的な機能を有しており、これらを保全し活用していくことが重要です。

- 環境汚染のない、きれいな海や川を確保し、引き継いでいくため、産業排水や生活排水等の監視指導、下水道等の汚水処理施設の普及や適切な維持管理による機能の維持など、水環境の保全に向けた取組を着実に進め、持続可能な水循環の形成に努めていく必要があります。

2040年の藤沢市の姿として、

環境に対する意識を高め、良好な自然環境や生活環境を保全し、資源化のさらなる推進を図るとともに、廃棄されるプラスチックごみゼロをはじめとする循環型社会形成の推進やエネルギーの地産地消と効率的利用を進めることにより、持続的で豊かな環境を実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標4 子どもたちを守り育む

【長期課題】

- 日本の合計特殊出生率は低下が続き、少子化は依然として進行しています。その背景として未婚化や晩婚化，出産年齢の上昇，子育てに対する価値観やニーズの多様化等の様々な要因があります。単に結婚や出産を望む人が減少しているのではなく，多様な価値観の中で将来の育児に対する不安や経済的な不安が根本にあると考えられます。子育て支援の充実に加え，テレワークの推進など就労環境の充実や民間施設内の保育環境の整備促進，既存施設のリノベーションなど，ソフト・ハード両面から子育て世代の住環境を充実し，包括的な子育ての未来を構築する必要があります。
- 経済的な問題にとどまらない子どもの貧困が大きな課題となっています。子どもの貧困は，世代間の連鎖や，子どもの潜在的な能力や個性を伸ばす機会が失われる要因となることも懸念されます。2040年を生きるすべての子どもたちが，非認知能力^{*}を身につけ，探求心や自己肯定感を高め，未来を閉ざされることのないよう，地域の様々な主体が子どもたちの日常に目を向け，関わりを継続できるような取組を行うことが必要です。
- 新型コロナウイルス感染症対策を契機として，どのような状況にあっても，子どもたちの学びを止めないために，ICTを活用したオンライン学習を進めるなど，学習環境の充実を図り，子どもたちが楽しく学びながら，思考力，判断力，表現力等を身につけ，予測困難なこれからの時代を生きる力をつけることができるよう取り組んでいく必要があります。
- 一人ひとりの子どもの多様性や個性を受けとめ，生かし，可能性を最大限に高めるため，教育的ニーズに対応できる支援教育を推進するとともに，相談体制を充実させるなど悩みや困りごとを抱える子ども・若者に寄り添い，その子ども・若者に合った社会参加や自立を支援する必要があります。

^{*} 非認知能力 非認知能力とは，読み・書き・計算などの認知的能力に対して，数値化しにくい能力で，目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱），他者との協働（社交性・敬意・思いやり），情動の制御（自尊心・楽観性・自信）などの力といわれています。乳幼児期にこうした能力を育むことで，成長後の精神的な健全さや社会性を高める資質となると考えられ，急速に変化する社会を生き抜く力として注目が高まっています。

- 「ふじさわ教育大綱」をもとに，子どもたちをはじめすべての世代が，学びを通して未来への夢や目標に向かって生きる力を育み，やさしく手を差し伸べあう笑顔あふれる幸せなまちをつくるため，学校と関係機関，地域の様々な主体のネットワークを成熟させることが重要です。さらに，時代の変化に対応し学校のあり方も大きく変化する中で，未来を担う子どもの学びを深めるための教育環境の整備と多様な人材の確保を進める必要があります。
- 子どもたちが安全安心でより快適な環境で学べるよう，インクルーシブやユニバーサルデザインの視点も取り入れた環境づくりを進める必要があります。

2040年の藤沢市の姿として，

すべての家庭が安心して子育てができる環境や子どもたちの「生きる力」が育まれる環境を整備するとともに，将来に夢や希望を持って，自ら考え自らの可能性や未知の課題にチャレンジし解決することができる子どもたちを，地域全体で育み，支えあう社会を構築し，子どもたちの健やかな成長を実感できる都市，子どもたちが『大人になってもずっと藤沢に住みたい！』と思える都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標5 健康で安心な暮らしを支える

【長期課題】

- 85歳以上人口が最大になる2040年以降に向け、社会保障関係経費の増大や医療・福祉・介護需要に対するサービス提供体制の再構築が全国的な課題となっています。また、単身世帯や高齢者世帯は今後とも増加し、地域の中でのさりげない見守りの必要性が増していきます。さらには、市民一人ひとりが、自分らしい人生の最終段階の迎え方を考え、備えておくことも必要です。
- 人生100年時代を見据え、誰もが安心して、より長く元気に暮らせるよう、高齢者の生活習慣病対策と介護予防・フレイル対策を市民や関係団体と共に進めるなど、健康寿命延伸のための取組や、市民が必要なときに適切な医療を受けられるための地域医療の連携・推進が一層重要になります。
- 高齢者の増加に伴い、認知症高齢者の増加が予想されます。認知症のご本人の声を大切にし、認知症への正しい理解を広げ、民間企業を含め、多様なセクターが連携することで、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる認知症フレンドリーな藤沢を実現する必要があります。認知症の人に限らず、高齢者も、障がいのある人も、誰もが暮らしやすいまちとなるよう取り組むことが重要となります。
- 医療・福祉・介護の人的資源が不足する中で、ロボットやAI、IoT、データヘルスなど先端技術を活用することにより、担い手・従事者の負担軽減や効率化を図るとともに、自宅で暮らしながらも、安心して適切な医療やサービスなどが受けられるよう、必要な人に適切な支援を提供できる体制を確保する必要があります。
- 一人ひとりが尊重され、自分にあった生き方を選択できるよう環境整備の充実が求められるとともに、地域住民をはじめとする多様な主体がつながり活動する「地域共生社会」の実現に向けて、藤沢型地域包括ケアシステム*の深化が一層重要になります。
- 一人ひとりの希望や能力、子育て・介護などの事情、健康や障がいの状況などに

* 藤沢型地域包括ケアシステム 高齢者を対象とした地域包括ケアシステムの仕組みを、全世代・全対象に応用し、子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者等、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく安心して暮らし続けることができるよう、13地区ごとの地域特性を生かし、市民や地域で活動する団体、関係機関等と連携した「支えあいの地域づくり」を進めるもの。

応じた、多様で柔軟な働き方や社会参加の機会が確保される生涯活躍・生涯現役の環境づくりが必要です。

2040年の藤沢市の姿として、

多様なライフスタイルのもと、個人の主体的で様々な選択を可能にするとともに、住み慣れた地域において、すべての人が、健康で、安心して暮らし続けられるよう、きめ細かな保健、医療、福祉、介護をさらに充実させ、共に支えあう地域社会を築き、心身ともに健やかな暮らしが実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標6 地域経済を循環させる

【長期課題】

- 藤沢市には、これまでの企業誘致の取組や地域に根ざした多くの企業の成長等により、活力ある地域経済の基盤となる産業集積があります。社会経済活動が人やモノの移動の上に成り立つことを前提としつつ、今後は、ポストコロナ時代を見据え、市民生活の新しい生活様式に対応した事業者の業態変化や、デジタルトランスフォーメーション（DX）が加速することが予想されます。地域経済の活力を維持・回復し、雇用を確保するためには、都市拠点等の整備に合わせた新たな産業・機能の誘致、スタートアップ支援やロボット産業振興などの新産業創出、中小企業のデジタル化を含めた経営支援を着実に進める必要があります。
- 地域の消費経済のさらなる活性化の基盤として、また超高齢社会における地域での健康な暮らしを支える基盤として、Eコマース（電子商取引）、テイクアウト・デリバリー等の変化への対応を図るとともに、地域コミュニティの核として機能する商店街の実現など、地域商業の一層の振興が重要となります。
- 湘南の中心商業地として発展し続けるため、大規模商業施設の老朽化に対応した藤沢駅周辺等の商業機能の強化が求められています。
- 高齢化や担い手不足など、厳しい経営環境にある都市農業と水産業を守り育てるために、テクノロジーの活用が必要であり、さらに新規参入者・後継者の支援や、地産地消、6次産業化・高付加価値化等も併せて推進することが重要となります。
- 我が国有数の景勝地である「江の島」を中心とした観光産業は、市内の基幹産業の一つとして成長し、年間観光客数は1,900万人以上（2019年（令和元年））となっています。新型コロナウイルス感染症の影響等、観光を取り巻く環境のめまぐるしい変化に対応し、日本有数の観光地であり続けるために、観光関連産業を維持、発展させるとともに、北部地域の自然を生かした市内全域における回遊性を高めるための取組も重要となります。
- テレワークの推進やサテライトオフィスの設置など、新型コロナウイルス感染症の影響により働き方が変化する中で、自然豊かな郊外都市で働くことで得られる豊かな暮らしを本市の魅力として位置づけるなど、市民の多様な働き方を支える環境づくりを促進していくことが重要となります。

2040年の藤沢市の姿として、

I C Tを積極的に活用したテレワークなどの働き方の変化に対応し、湘南の海と豊かな緑といった自然環境を身近に感じながら、湘南のライフスタイルと一体となった豊かな働き方が可能となる都市を実現するとともに、恵まれた交通基盤や積み重ねてきた産業集積等の強みを生かし、ビッグデータ・A I 社会に対応しながら、商業、工業、農水産業、観光等、様々な産業が一体となって地域経済を循環させることにより、市民が活力と魅力を実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標 7 都市基盤を充実する

【長期課題】

- 藤沢市では6つの都市拠点地区への機能集積を図りながら、拠点を結ぶ鉄道、道路等の交通ネットワークの整備促進による利便性の向上と自然環境との調和の両立を進めてきています。これからも、「藤沢駅周辺地区」の再整備をはじめとする都市拠点の充実とさらなる活性化に向けた取組を進め、人口の維持・増加にもつながるよう、都市の魅力と活力を高めていく必要があります。
- 交通アクセスの向上等の都市基盤の整備（ネットワークの形成）にあたっては、バス・自転車の利用の促進などによる環境負荷の低減や、自動運転やMaaS[※]など、交通に関わるテクノロジーの進歩に対応した誰もが移動しやすい交通の充実のほか、渋滞の緩和やボトルネック箇所の解消などの対策が求められています。
- 高度経済成長期に整備された道路、河川、橋りょう、下水道、公園等の都市基盤施設や、庁舎、学校等の公共建築物は、長寿命化を含む老朽化対策、超高齢社会に対応した機能の充実・強化、持続可能性を考慮した規模適正化、気候危機も踏まえた自然災害への対策の強化等が必要となります。厳しい財政見通しの中で、市民の暮らしを支える都市基盤施設の再編、集約化や、最先端技術も取り入れたストックマネジメントがますます重要となっていきます。
- 超高齢化、人口減少、国際化、情報化の進展等に対応した住みよい都市の形成の視点から、豊かで安定した住生活環境の確保が求められています。

[※] MaaS（マース：Mobility as a Service） 地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。（国土交通省）

2040年の藤沢市の姿として、

これまでに設置した都市基盤施設について長寿命化を含めた再整備や、既存施設の再編、集約化をさらに進め、公共空間の多様な機能の発揮を促すとともに、将来にわたって都市の魅力と活力を維持するための新たな基盤整備と土地利用を促進することにより、都市としての優位性と持続可能性を高め、自然豊かな環境の中で利便性が高く快適な生活を実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

基本目標 8 市民自治・地域づくりを進める

【長期課題】

- 藤沢市では、「地区市民集会」にはじまり、「郷土づくり推進会議」に至る市民の市政への参画や、市民協働の先進的な取組が進められてきました。これまでに築いてきたこれらの経験や実績を礎とし、市民と行政とのパートナーシップに基づく市政運営を一層進めていくことが必要となります。そのためには、地域における様々な課題を市民と市とが共有し、適切な役割分担による「地域づくり」を庁内の横断的な連携により進める取組をさらに深化させていくことが重要となります。
- 自治会・町内会をはじめとする様々な地域活動団体によって、市民生活に根ざした取組が積極的に進められています。その一方で、超高齢化や単身世帯の増加等により自治会加入率は低下する傾向にあり、今後、コミュニティの希薄化が一層懸念されています。持続可能な地域づくりに向けて、ICTの活用等、様々な参加スタイルの工夫により、地域を支える活動への若い世代の参画を促進するとともに、地域で行われている多様な活動をさらに広げていくことが求められています。
- 市民によるボランティア、市民活動団体、NPO等の活動や、学校・企業・各種法人等の社会貢献活動が盛んに行われ、コミュニティビジネス等も広がってきています。こうした取組により、各地区の魅力や特色を生かした地域づくりが展開されている中で、市、市民、市民活動団体、学校、企業、各種法人等の多様な主体が目的や意識等を共有し、その輪を広げ、マルチパートナーシップのもとに多様化する地域課題の解決につなげる仕組みを定着させていくことが重要となります。
- 市民の利便性を高めるため、各種行政手続のオンライン化を推進するなど、必要な市民サービスが、いつでもどこでも受けられる環境づくりを進める必要があります。
- 東京2020大会を契機として、市民ボランティアへの気運の高まりをレガシーとして未来につなげ、市民活動に参画しやすい環境づくりを進めるとともに、様々な分野の市民活動等を行う人々が横断的につながり、一つになって力を発揮することができるプラットフォーム（土台となる環境）づくりを進めていく必要があります。こうした取組により、誰もがやりたいことが見つけられ、実現できる環境づくりを進めていくことが重要となります。
- 一人ひとりの人権を尊重し、ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）平

等を促進するとともに、あらゆる人が共同してつくる平和な社会の実現に向けて、市民、地域社会の質的な成熟を目指していく必要があります。

2040年の藤沢市の姿として、

ICTの活用等により、多様な市民が、それぞれの生活スタイルに合わせて、地域を支える様々な活動に参加することができ、地域との関わりの中で、支えあい、より豊かに暮らすことができるよう、市民活動と地域づくりをさらに充実させることにより、市民が中心となったまちづくりを実感できる都市を目指します。



※基本目標とSDGsの17の目標との関連性について示しています。

第2章 重点方針

「第1章 基本方針」においては、総合計画に替わるこの指針の意義と構成、重点方針の前提となる「長期的な視点」を位置づけてきました。そのうち「長期的な視点」については、「めざす都市像」、「3つのまちづくりコンセプト」及び「8つの基本目標」を示し、これから20年程度の期間の中で、すべての事務事業において共通して目指すべき方向性と目標を明らかにしました。

「第2章 重点方針」においては、この「長期的な視点」を踏まえ、喫緊に取り組む重点課題を抽出、整理し、「まちづくりテーマ」として設定するとともに、「まちづくりテーマ」に対応する「重点施策」を位置づけます。

なお、「重点施策」に基づく「重点事業」は、別冊の「事業集」に位置づけます。

1 取組の考え方

取組の効果と効率性を高めるため、重点施策、重点事業だけでなく、計画期間において、すべての事業の実施にあたって留意すべき共通の考え方を示します。

(1) マルチパートナーシップの推進

市民、市民団体をはじめ、大学などの教育機関、県や他市町村といった行政機関、企業などの民間機関は、地域で様々な取組を進めています。

少子超高齢社会、人口減少社会に向けては、これらの主体的な取組と役割を相互に認め、尊重する中で、協働して取り組む必要があります。

マルチパートナーシップとはこうした役割と協働の姿であり、多様な主体が市民生活における暮らしやすさや藤沢への誇りなどの目標を共有し、さらに連携を深めるよう一層の推進を図ります。

(2) 「藤沢らしさ」を大切に、「藤沢にしかないもの」を生かす

藤沢市が魅力と活力のあふれる元気都市であり続けるために、市民力・地域力との連携により、先人たちが積み上げてきた歴史と文化、藤沢ならではの自然の豊かさ、美しさ、そして、うるわしい人の和などの「藤沢らしさ」を大切に、「藤沢にしかないもの」を生かしていきます。

③ 横断的連携

庁内各部がそれぞれ個別に施策に取り組むだけでなく、一つの課題に対して複数の部・局が横断的に取り組む中で、施策の方向性をあわせ、目的を共有することにより、施策の効果や取り組む事業の効率性を高めていきます。

2 5つのまちづくりテーマと17の重点施策

「第1章 基本方針」の「長期的な視点」を踏まえ、市民意識調査結果などに見られる市民ニーズに基づいた課題の緊急性・重要性や、長期課題からの逆算（バックキャストिंग）、市長公約等から、直近4年間に重点的かつ確実に取り組むべき課題と施策を5つのまちづくりテーマと17の重点施策にまとめて示します。

今後の4年間は、新型コロナウイルス感染症対策を最優先としつつも、2025年問題をはじめとする喫緊の課題に着実に対応し、さらに、20年後を見据えた持続可能なまちづくりへの転換を進める最初の4年間と捉え、取組を進めます。



市民の安全な暮らしを守るため、地震、津波、近年激甚化・頻発化する風水害、都市災害をはじめ、悲惨な交通事故、手口が巧妙化する特殊詐欺などの犯罪や火災、テロなど、市民の生命と財産、生活を脅かすリスクを低減するとともに、事前の防災や減災、災害早期の初動体制にも対応し、災害に対して、強さとしなやかさを備えた危機に強いまちづくりを推進する必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症に対しては、ワクチンや治療薬等の開発・普及の状況を的確に捉え、国、県の施策と連携しつつ、感染拡大の防止と、適切な医療提供体制の確保等を最優先に進める必要があります。

(1) 災害対策の充実

切迫性が指摘される首都直下型や津波を伴う大規模地震への対策や、地球温暖化に起因する気候危機への適応策の強化に向けて、被害を最小限に抑え、速やかに回復できる防災・減災に取り組むとともに、地域における防災力を強化し、充実させます。また、市民生活における様々な脅威に対応するため、消防・救急体制の強化など、危機管理対策を推進します。

【防災安全部、計画建築部、都市整備部、道路河川部、消防局】

(2) 防犯・交通安全対策の充実

地域での犯罪を抑止する環境整備として地域、駅前、商店街等への防犯カメラの増設を推進するとともに、特殊詐欺などへの対策を強化します。また、交通安全対策として、自転車を中心に交通ルール・マナーの啓発に取り組むとともに、歩道と自転車の利用環境の整備を推進します。

【防災安全部、経済部、道路河川部】

(3) 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症については、市民の命と健康を守り、市民生活と地域経済に及ぼす影響をできる限り抑えるため、国や県と連携し、市民、関係団体、事業者、医療・福祉従事者など多様な主体とのパートナーシップにより、感染拡大防止のための様々な取組を進めます。また、市民・事業者等への適切な情報提

供を行いつつ、相談、診療、検査、療養のための医療提供体制等の確保、拡充や患者発生後の的確な積極的疫学調査等の実施により感染拡大を回避するとともに、ワクチン接種に必要な体制の構築及び実施なども最優先課題として取り組みます。

さらに、新たな感染症の発生に備えた健康危機体制等の構築のための検討・準備を進めます。

【総務部，防災安全部，福祉健康部 (健康医療部)，経済部，市民病院】

超高齢化が進展する中で、保健、医療、福祉、介護などの社会保障は、市民の安心や社会の安定に大きな役割を果たしていますが、その持続可能性への対応は大きな課題になっています。また、雇用や家族形態の変化、コミュニティの希薄化などの中で、地域生活課題も多様化・複合化しています。

本市では、高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するための地域包括ケアシステムの推進と合わせ、社会的孤立の問題なども含めた世帯全体の課題を捉える包括的な相談支援に取り組み、地域の専門機関、自治会・町内会をはじめ多様な主体との協働による支えあいの地域づくりと一体となった全世代・全対象型地域包括支援体制（藤沢型地域包括ケアシステム）の構築を進めています。2025年（令和7年）に向けて、より一層の体制強化と、健康増進などの自助の活動を支える環境づくりが重要となっています。

また、市民センター・公民館を中心とする行政区域（13地区）ごとに、主体的な市民活動が行われてきた歴史があり、地域の取組を支える体制やサービス拠点としての機能の充実を図る必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響下においては、これまで培ってきた支援・協働体制を柔軟に活用することや、新たな生活様式に対応した取組、活動へと見直し、再構築を進めることも重要になっています。

① 地域共生社会の実現に向けた取組の推進

高齢者、障がい者、生活困窮者をはじめ、家族の介護や看病、見守りなどの世話を担う人（ケアラー）や子育て中の人など、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して暮らし続けることができるよう、交流の場づくりや担い手づくりを推進するとともに、相談体制や支援の充実を図ります。さらに、地域共生社会の実現に向けて重層的な支援体制を築き、多機関協働でのネットワークをより一層進めていきます。

【福祉健康部 （福祉部・健康医療部）】

② 健康寿命日本一に向けた健康増進・介護予防等の促進

健康寿命日本一に向けて、健康増進や認知症予防への取組や、在宅生活を支える保健医療分野の関係機関との連携体制を強化するとともに、生涯を通じて健康に関心を持ち、若い世代からの生活習慣の見直しや受動喫煙防止などに取り組める環境づくりを進めていきます。また、医療・介護データの分析をもとに、様々な取組によるフレイル予防など、高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施を進めます。

【福祉健康部 (健康医療部・福祉部)】

③ コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進

地域で活動する多様な主体と市が協働し、持続的なコミュニティと地域社会を形成するため、「郷土づくり推進会議」と市民センター・公民館との連携した地域づくりの取組を軸に、地域の多様な主体とともに地域課題への対応を進めます。また、NPO等の市民活動団体の育成や活動を支援するとともに、こうした団体の活動を地域の様々な課題解決につなげます。

さらに、自治会・町内会や様々な地域活動団体の活動を支援するとともに、公民館と地域活動団体との連携による地域に根ざした課題の共有・対応や人材の育成、ICT等を活用した若い世代の地域活動への新たな参加のあり方の工夫等により、各地区の特性を生かした地域づくりを推進します。

【市民自治部，生涯学習部，福祉健康部 (福祉部)】

核家族化の進展や地域とのつながりの希薄化、子どもの貧困の深刻化等、子ども・子育てをめぐる社会環境が大きく変化する中で、次代を担う子どもたちの心身の健康と「生きる力」を育むため、すべての子どもたちが笑顔で健やかに育つ子育てしやすい環境づくり、ICTを活用した学習環境の充実を含め、時代の変化に対応した教育環境の整備が求められています。

また、子どもたち一人ひとりが他者への思いやりや豊かな心を育み、人と人との関わりを大切にする力を身につけていくことも必要です。

困難を有する子ども・若者に対しては、当事者の声を大切にし、個々に寄り添いながら、社会全体で支援を行う必要があります。

(1) 子どもたちの笑顔あふれる学校教育の推進

様々な課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに応え、ともに学び、ともに育つ学校教育を推進します。また、豊かな心、確かな学力、健やかな体を育むための学校教育を目指すとともに、これからの時代を生きる力を身につけるための学びの環境を充実します。さらに、今後の少人数学級への制度移行により、子どもたちの学びをしっかりと支えられるよう、教育環境の整備を進めます。

【教育部】

(2) 子どもの健やかな成長に向けた支援の充実

子どもの未来を最優先に考え、子どもの健やかな成長のために、様々な制度や重層的な支援が一体となって、子どもたちの生活を支えることができるよう取り組むとともに、地域で安心して子育てができる環境整備を進めます。また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の体制を確保し、安全・安心で健やかな妊娠・出産、産後をサポートします。

【子ども青少年部、子ども青少年部（健康医療部）】

(3) 支援を必要とする子ども・若者への支援の充実

社会の複雑化や多様化等により子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、子どもの貧困や、悩みや困りごとを抱える子ども・若者の増加が大きな課題となっ

ていることから、専門人材による対応を含め、総合的な相談体制や生活支援、経済的支援等の取組を充実します。

【福祉健康部 (福祉部)、子ども青少年部、経済部、教育部】

都市としての持続性を維持しながら藤沢の魅力や活力を高めるため、新たな基盤形成や都市施設の長寿命化、更新を計画的に進める必要があります。

また、今後の空き家の増加や高齢者世帯の増加を見据え、市民生活に欠かすことのできない居住環境の維持保全を図るとともに、将来的な人口減、少子超高齢化の状況を見据え、市民が移動しやすい環境づくりを強化する必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大により深刻な影響を受けた地域経済への支援、活力再生を強力に進める必要があります。

① 都市基盤の充実と長寿命化対策の推進

少子超高齢社会への対応や自然災害への対策の強化等も踏まえ、自然と調和しつつ市民生活と市内経済を支える都市基盤の充実を図るため、都市拠点の形成、ストックマネジメント、公共施設等の再整備を進めます。

【企画政策部，財務部，市民自治部，生涯学習部，福祉健康部（福祉部），環境部，経済部，計画建築部，都市整備部，道路河川部，下水道部，消防局，教育部】

② 住生活環境の向上と誰もが移動しやすい交通体系の構築

暮らしやすさに直結する豊かで安定した住生活環境の確保に向けて、「藤沢市住宅マスタープラン」や「藤沢市空家等対策計画」等に基づき、空き家対策、団地再生、居住支援に関する取組の充実を図ります。

また、高齢者や障がい者をはじめ、誰もが移動しやすい交通体系の構築を目指し、交通に関する技術革新や新しい交通サービスの進展を踏まえ、「藤沢市交通マスタープラン」等に基づき、拠点間や拠点と地域を結ぶネットワークの構築による身近な交通環境づくりを推進します。

【計画建築部，道路河川部】

③ 地域経済循環を高める経済対策の推進

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りつつも、地域経済をしっかりと循環させるため、市民生活と市内中小企業を支える経済対策を進めます。

地域経済の活力再生に向け、商工業、新産業、観光、農水産業など、各産業分野の支援策を総合的に進め、地域経済循環の一層の推進を図るとともに、特に、飲食業や観光関連産業など、感染症により深刻な影響を受けている産業の早期復興のための対策を進めます。

また、テレワークの普及など働き方の変化に対応し、市民の多様な働き方を支える環境づくりに取り組めます。

【経済部】

持続可能な社会の実現に向け、世界的な気候変動問題を念頭に、地球温暖化対策、廃棄物対策、環境の保全と再生などを、一人ひとりが自分ごととして考え、取り組む必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症への対応において、国、自治体のデジタル化の遅れによる行政の非効率性、給付の遅さなど、様々な課題が明らかとなったことを受け、本市としても、オンライン申請など、市民をはじめ利用者が利便性を実感できるサービスを早期に実現するなど、スピード感をもってデジタル化に取り組む必要があります。

社会の様々な分野においてすでに顕在化している担い手不足、人材不足の課題に対しては、人材の確保に向けた取組の支援・強化を図るとともに、ICTを活用し業務のあり方を抜本的に変えるなど、多様な手法による解決を進める必要があります。

歴史・文化についても、先人の積み重ねてきた資源を守り、生かし、その魅力を広く発信するなど、次世代につなげる取組に力を注ぐ必要があります。

2021年（令和3年）に延期された東京2020大会については、一人でも多くの市民が関わることができるよう市民参加型大会として推進し、レガシーの創出と定着に重点的に取り組む必要があります。

こうした取組は、市民意識調査等による重要度の順位づけだけでは捉えきれないものとして、基本方針に位置づけた目指すべきまちの姿や長期課題からの逆算（バックキャスト）の視点により重点的に推進することとします。

(1) 豊かな自然を守り・生かす環境対策の推進

藤沢市環境基本計画等に基づき、地球温暖化に起因する気候危機への緩和策の強化に向けて、地球温暖化対策の充実を図るとともに、環境啓発を推進します。

また、本市の豊かな自然環境を守るため、プラスチックごみの削減や海洋プラスチックごみ対策など、環境美化、ごみ減量を推進するとともに、緑地や水環境の保全、自然環境共生を進めます。

【環境部、都市整備部、下水道部】

② デジタル市役所・スマートシティの推進

国、県の施策と連携しつつ、行政手続のオンライン化を推進するとともに、ICT活用による内部事務の効率化や業務のあり方の見直しを進めます。また、地域の多様な主体がICTの力でつながることで、新たな活力を引き出せるよう地域におけるデジタル化を推進するとともに、誰もがインターネットやスマートフォンの活用による恩恵を受けられる社会となるよう取組を進めます。また、デジタル市役所の前提となるマイナンバーカードの普及促進を図ります。

さらに、Society 5.0社会の到来を見据えて、スマートシティを推進するため、民間企業や大学、他自治体との積極的な連携を進め、テクノロジーの活用による社会的課題の解決を推進します。

【総務部，企画政策部，市民自治部，生涯学習部，経済部，教育部】

③ 人材育成の推進

担い手不足，人材不足の課題に対して，各分野で多様な人材が活躍できるように支援策の強化を図ります。また，就職氷河期世代をはじめ様々な要因により不安定な就労状況にある人への支援を進めます。

市職員についても，市民サービスの向上や行政のデジタル化及び効率化，地域まちづくりなどを進めるにあたって，時代の変化に適応した変革が実現できるよう，新たな視点や発想，異なる業務経験や専門知識などを持った多様な人材の採用，育成を進めます。

【総務部，福祉健康部 (福祉部)，子ども青少年部，経済部】

④ 次世代につなげる歴史・文化施策の推進と多彩な魅力の発信

新たな「ふじさわ文化」の創造に向けて，文化芸術活動を支える環境・拠点の整備や次世代育成，幅広い世代への活動支援等の推進並びに本市の貴重な歴史資源についても，未来につなげるための保全・継承・活用を推進します。

また，豊かな歴史や文化，自然などの魅力に加え，藤沢でつくられた商品やサービス，活躍する人々など，新たな魅力の発掘・創出を進めるとともに，多様な主体と連携して，市内外への統一的で効果的な情報発信を進め，郷土への愛着と誇りを高め，都市としての知名度やブランド力の向上を図ります。

【企画政策部，生涯学習部，計画建築部，経済部 (企画政策部)】

⑤ 市民参加型東京2020大会のレガシー創出

東京2020大会については、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底する中で、一人でも多くの市民が関わるができるよう市民参加型大会の実現に向けた取組を推進し、スポーツ文化の定着を図るスポーツ都市宣言や、ボランティアの促進を図る「チーム FUJISAWA2020」プロジェクトなど、レガシーの創出と定着に取り組みます。

【市民自治部，生涯学習部】

3 重点施策実現に向けた財政見通し

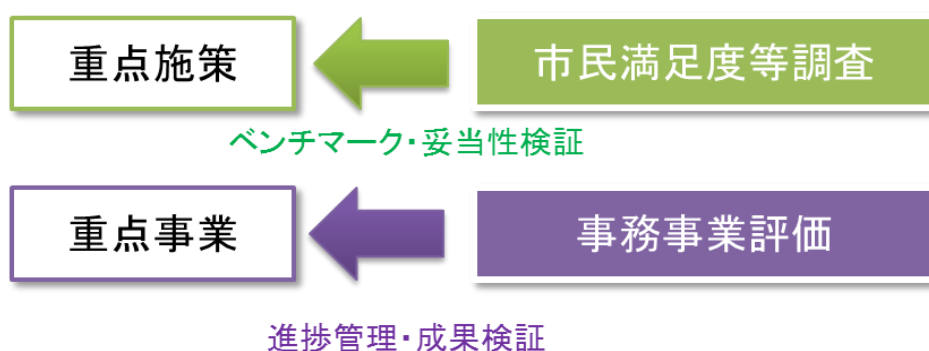
令和2年度に予定していた「中期財政見通し」の更新については、新型コロナウイルス感染症の影響を見極めるため、令和3年度に延期して実施します。

新型コロナウイルス感染症の影響に関わらず、今後の財政状況は、税収の大幅な増加が見込めない一方、社会保障関係経費や公共施設再整備に係る経費の増大などにより、毎年度、何も対策を講じなければ多額の財源不足が必ず生じることを想定する必要があります。また、そうした状況にあっても、未来に向けた投資的経費は、今後の安定的な税収確保、まちの活力の維持・創出のために必要になります。

そのため、重点的に取り組むべき施策を定め、それを推し進めるための財源の確保と取組方法の創意・工夫を行うことで、政策主導の財政運営を進めます。また、財政状況の変化に柔軟に対応するとともに、行政の効率化、既存事業の見直し等を進める行財政改革とより密接に連携します。さらに、毎年度の重点事業の見直しにあたっては、第3次公共施設再整備プラン等との整合を図りつつ、重点事業を追加していきます。

4 評価

重点施策の評価は指標を設定し、市民満足度をはじめとする「市民意識調査」※により行います。また、重点施策の実現に向けた重点事業の評価は、事務事業評価と連動して実施し、その中で事業の効率性を高め、適切な改善を図るとともに、確実な進捗管理を行います。



※ 市民意識調査 市政運営の総合指針の「めざす都市像」，「基本目標」，「重点施策」の評価指標として，施策・事業等に関する実現度と満足度等を毎年調査しています。これまで，地区や年代ごとの人口に応じて無作為抽出した20歳以上の市内在住者を対象に実施し，調査結果は市ホームページで公開しています。

5 重点施策の実現に向けた重点事業

重点施策の実現を図るための個別の取組は、「重点事業」として重点施策ごとにまとめ、別冊の「事業集」に示します。

重点事業は、まちづくりテーマと重点施策の実現を図ることを目的として、指針の期間において重点的に取り組むものであり、事業費、人的コストの重点的な投入や事業の組織横断的な検討により対応していきます。

また、各年度の重点事業費についても、別冊の「事業集」に事業費ベース、一般財源ベースで集計するとともに、毎年度更新していきます。

重点事業（案）の概要について

（仮称）藤沢市市政運営の総合指針2024における重点施策の実現に向けて、重点事業に位置づける事業は、次のとおりです。

なお、重点事業については、第3次藤沢市公共施設再整備プランとの整合を図るとともに、令和3年度の中期財政見通しの状況を踏まえ、毎年度見直しながら推進します。

1 事業数

まちづくりテーマごとの重点事業数は、次のとおりです。

まちづくりテーマ	重点事業数
1 安全で安心な暮らしを築く	14
2 健康で豊かな長寿社会をつくる	26
3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	14
4 都市の機能と活力を高める	15
5 未来を見据えてみんなではじめる	24
合 計	93

※ 重点事業数には令和3年度当初予算のない事業を含みます。

2 想定全体事業費

まちづくりテーマごとの想定全体事業費は、次のとおりです。

（単位：千円）

まちづくり テーマ	令和3年度 見込額	令和4年度 見積額	令和5年度 見積額	令和6年度 見積額	期間合計 (3～6年度)
1	1,331,113	2,252,533	1,350,675	1,517,971	6,452,292
2	3,008,125	2,048,024	1,662,924	3,225,546	9,944,619
3	3,200,303	2,564,055	4,665,183	3,107,257	13,536,798
4	7,795,793	11,488,575	3,228,422	5,991,481	28,504,271
5	814,092	1,046,350	1,083,109	1,298,727	4,242,278
計	16,149,426	19,399,537	11,990,313	15,140,982	62,680,258

※ 令和3年度事業費については、現時点の予算見込、令和4年度から令和6年度の事業費については、令和3年度予算見込を前提とした現時点の見積額となっています。

※ 特別会計の事業費、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種関連予算額は表の金額に含んでいません。

3 重点事業（案）一覧

重点施策ごとの重点事業は、次のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響に対応する緊急の経済対策等は、下表に記載していませんが、補正予算対応を含め、状況に応じて優先的に取組を進めます。

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
まちづくりテーマ 1 「安全で安心な暮らしを築く」			
重点施策1 災害対策の充実			
1	防災設備等整備事業費	防災安全部	
2	危機管理対策事業費	防災安全部	
3	建築物等防災対策事業費	計画建築部	
4	公園改修費（法面对策）	都市整備部	
5	緑地改修事業費（法面对策）	都市整備部	
6	一色川改修費	道路河川部	テーマ4－施策1
7	大規模震災等対策強化事業費	消防局	
8	南消防署本町出張所（第9分団）再整備事業	消防局	テーマ4－施策1
重点施策2 防犯・交通安全対策の充実			
1	街頭防犯カメラ設置推進事業費	防災安全部	
2	防犯対策強化事業費	防災安全部	
3	自転車駐車場整備費	道路河川部	テーマ4－施策2
4	市道新設改良費（自転車走行空間整備事業）	道路河川部	テーマ4－施策2
5	道路安全対策費（交差点の安全対策）	道路河川部	

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
重点施策3 感染症対策の強化			
1	感染症対策事業費	福祉健康部（健康医療部）	
まちづくりテーマ 2 「健康で豊かな長寿社会をつくる」			
重点施策1 地域共生社会の実現に向けた取組の推進			
1	包括的支援体制推進事業費	福祉健康部（福祉部）	
2	生活困窮者自立支援事業費	福祉健康部（福祉部）	テーマ3－施策3
3	成年後見制度等推進事業費	福祉健康部（福祉部）	
4	地域の縁側等地域づくり活動支援事業費	福祉健康部（福祉部）	テーマ2－施策3
5	（新）障がい者相談支援事業費 （障がい者相談支援体制の拡充）	福祉健康部（福祉部）	テーマ3－施策3
6	【特別会計】介護保険事業費（包括的支援事業）	福祉健康部（福祉部・健康医療部）	テーマ2－施策2
重点施策2 健康寿命日本一に向けた健康増進・介護予防等の促進			
1	健康づくり推進事業費	福祉健康部（健康医療部）	
2	がん検診事業費	福祉健康部（健康医療部）	
3	【特別会計】介護保険事業費 （一般介護予防事業費）	福祉健康部（福祉部）	
重点施策3 コミュニティの活性化による持続的な地域づくりの推進			
1	ミライカナエル活動サポート事業費	市民自治部	
2	六会地区まちづくり事業費	市民自治部	
3	片瀬地区地域まちづくり事業費	市民自治部	

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
4	明治地区まちづくり事業費	市民自治部	
5	御所見地区地域まちづくり事業費	市民自治部	
6	遠藤まちづくり推進事業費	市民自治部	
7	長後地域活性化事業費	市民自治部	
8	辻堂地区地域まちづくり事業費	市民自治部	
9	善行地区まちづくり事業費	市民自治部	
10	湘南大庭地域まちづくり事業費	市民自治部	
11	湘南台地域まちづくり事業費	市民自治部	
12	鵜沼地区まちづくり事業費	市民自治部	
13	藤沢地区まちづくり事業費	生涯学習部	
14	村岡いきいきまちづくり事業費	生涯学習部	
15	善行市民センター改築事業費	市民自治部	テーマ4－施策1
16	辻堂市民センター改築事業費	市民自治部	テーマ4－施策1
17	村岡公民館改築事業費	生涯学習部	テーマ4－施策1
まちづくりテーマ 3 「笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる」			
重点施策1 子どもたちの笑顔あふれる学校教育の推進			
1	教育情報機器関係費	教育部	テーマ5－施策2
2	教育情報化推進事業費	教育部	テーマ5－施策2
3	(新) 学校運営協議会推進事業費 (コミュニティ・スクール)	教育部	
4	特別支援教育整備事業費	教育部	テーマ3－施策3
5	諸整備事業費 (特別支援学校)	教育部	テーマ3－施策3
6	鵜沼小学校改築事業費	教育部	テーマ4－施策1
重点施策2 子どもの健やかな成長に向けた支援の充実			
1	法人立保育所等施設整備助成事業費	子ども青少年部	
2	法人立保育所運営費等助成事業費 (病児保育)	子ども青少年部	
3	市立保育所運営費 (病児保育)	子ども青少年部	

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
4	(新) 妊娠・出産包括支援事業費	子ども青少年部 (健康医療部)	
5	少年の森整備事業費	子ども青少年部	
6	放課後児童クラブ整備事業費	子ども青少年部	
7	放課後児童健全育成事業費	子ども青少年部	
重点施策3 支援を必要とする子ども・若者への支援の充実			
1	就労支援事業費	経済部	テーマ5－施策3
まちづくりテーマ 4 「都市の機能と活力を高める」			
重点施策1 都市基盤の充実と長寿命化対策の推進			
1	【特別会計】墓園事業費（大庭台墓園立体墓地再整備事業）	福祉健康部（福祉部）	
2	環境事業センター整備費	環境部	テーマ5－施策1
3	一般廃棄物中間処理施設整備事業費	環境部	テーマ5－施策1
4	村岡地区都市拠点総合整備事業費 ※新駅設置を含めた事業実施判断によります。	都市整備部	
5	長後地区整備事業費	都市整備部	テーマ4－施策2
6	公園改修費（鵜沼海浜公園）	都市整備部	
7	藤沢駅周辺地区再整備事業	都市整備部	
8	健康と文化の森整備事業費	都市整備部	
9	市道新設改良費（藤沢652号線）	道路河川部	テーマ4－施策2
10	善行長後線街路新設事業費	道路河川部	テーマ4－施策2
重点施策2 住生活環境の向上と誰もが移動しやすい交通体系の構築			
1	空き家対策関係費	計画建築部	
2	住宅政策推進費	計画建築部	
3	総合交通体系推進業務費	計画建築部	
重点施策3 地域経済循環を高める経済対策の推進			
1	誘客宣伝事業費	経済部	

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
2	観光施設整備費	経済部	
まちづくりテーマ 5 「未来を見据えてみんなではじめる」			
重点施策1 豊かな自然を守り・生かす環境対策の推進			
1	環境基本計画関係費	環境部	
2	地球温暖化対策関係事業費	環境部	
3	環境啓発推進事業費	環境部	
4	海岸美化関係費	環境部	
5	ごみ減量推進事業費	環境部	
6	緑地保全事業費（樹林地復元）	都市整備部	
7	自然環境共生推進事業費（生物多様性地域戦略）	都市整備部	
8	【特別会計】下水道事業費（辻堂浄化センター雨水滞水池等）	下水道部	テーマ4－施策1
重点施策2 デジタル市役所・スマートシティの推進			
1	（新）デジタル推進事業費	総務部・企画政策部（企画政策部）	
2	ロボット未来社会推進事業費（現：ロボット産業推進事業費）	経済部（企画政策部）	
3	個人番号カード普及促進事業費	市民自治部	
重点施策3 人材育成の推進			
1	職員採用関係費	総務部	
2	職員基本研修費	総務部	
3	職員専門研修費	総務部	
4	介護人材育成支援事業費	福祉健康部（福祉部）	テーマ2－施策1
5	法人立保育所運営費等助成事業費（保育士確保）	子ども青少年部	テーマ3－施策2
6	（新）幼稚園人材確保支援事業費	子ども青少年部	テーマ3－施策2
7	担い手育成支援事業費（農業）	経済部	テーマ4－施策3

NO.	重点事業名	所管部等	関連重点施策
重点施策4 次世代につなげる歴史・文化施策の推進と多彩な魅力の発信			
1	市民会館整備費	生涯学習部	テーマ4－施策1
2	アートスペース運営管理費	生涯学習部	
3	景観資源推進費	計画建築部	
4	シティプロモーション関係費	経済部（企画政策部）	
重点施策5 市民参加型東京2020大会のレガシー創出			
1	オリンピック開催準備関係費	生涯学習部	
2	（新）スポーツ都市宣言推進事業費	生涯学習部	

※ 重点事業名欄の括弧書きは、重点化の内容に関する補足として記載しています。

※ 所管部等欄の括弧書きは、組織改正後の所管部を記載しています。

以 上